科目名	英会話Ⅰ			授業の方法	演習
担当教員	James Klein		実務授業の有無	○	
対象学科	野外教育・ｱｳﾄﾄﾞｱｽﾎﾟｰﾂ/自然ガイド・環境保全/山岳プロ	対象学年	1	開講時期	通年
必修・選択	必修	単位数		時間数	32時間
授業概要、目的、授業の進め方	海外でコミュニケーションをとるのに必要な英語を学び、最低限の会話力を身につける。また、国際感覚を身に付けるために海外の文化・習慣についても学ぶ。				
学習目標（到達目標）	日常会話に必要な最低限の英語力を身につける。				
テキスト・教材・参考図書・その他資料	適宜授業内容に関するプリントを配布				

回数	授業項目、内容	学習方法・準備学習・備考	
1	Getting Acquainted	会話と板書による学習	4/14
2	Getting Acquainted	会話と板書による学習	4/21
3	Experiences	会話と板書による学習	4/28
4	Experiences	会話と板書による学習	5/12
5	Sport & Lisure	会話と板書による学習	6/2
6	Sport & Lisure	会話と板書による学習	6/9
7	Shopping & Money	会話と板書による学習	6/16
8	Shopping & Money	会話と板書による学習	6/23
9	Food	会話と板書による学習	10/14
10	Food	会話と板書による学習	10/21
11	Travel	会話と板書による学習	10/28
12	Travel	会話と板書による学習	11/4
13	Movies & Television	会話と板書による学習	11/18
14	Movies & Television	会話と板書による学習	11/25
15	Work	会話と板書による学習	1/13
16	Work	会話と板書による学習	1/20

評価方法・成績評価基準	履修上の注意
出席率と授業態度により評価を行う。 出席率80％未満の場合、原則として成績評価は行わない。 成績評価基準は、優(80点以上)・良(70点以上)・可(60点以上)・不可(59点以下)とする。	増加するインバウンドに対して英語でガイドできる人材が求められています。授業内外で積極的に会話することで語学力を高めてください。

実務経験教員の経歴	日本での英語教師歴10年。インバウンドに対応できるよう最低限の英会話力を習得するよう指導する。

科目名	英会話Ⅱ			授業の方法	演習
担当教員	James Klein	実務授業の有無		○	
対象学科	山岳プロ	対象学年	2	開講時期	通年
必修・選択	必修	単位数		時間数	32時間
授業概要、目的、授業の進め方	海外でコミュニケーションをとるのに必要な英語を学び、最低限の会話力を身につける。また、国際感覚を身に付けるために海外の文化・習慣についても学ぶ。				
学習目標（到達目標）	・ガイディングに必要な語彙力と英会話力を身につける。 ・英会話実習に向けたショップ・飲食店・宿泊施設等で使える英会話を身につける。				
テキスト・教材・参考図書・その他資料	特になし				

回数	授業項目、内容	学習方法・準備学習・備考	
1	語彙力（自然）	会話と板書による学習	4/13
2	語彙力（道具）	会話と板書による学習	4/20
3	語彙力（天気・地形・病気やケガ・体）	会話と板書による学習	4/27
4	ガイディングに必要な英会話（グリーンシーズン）	会話と板書による学習	5/11
5	ガイディングに必要な英会話（スノーシーズン）	会話と板書による学習	6/1
6	ガイディングに必要な英会話（ガイディングの一連の流れ）（挨拶・自己紹介・行程・危険箇所・体調・装備・体操・順番・休憩・水分補給など）	会話と板書による学習	6/8
7	5分間の英語発表（ガイディングに関する内容）	発表者は事前に準備しておくこと	6/15
8	5分間の英語発表（ガイディングに関する内容）	発表者は事前に準備しておくこと	6/22
9	アウトドアショップで必要な英会話（接客・商品説明・電話応対・会計・数字やお金の数え方）	会話と板書による学習	10/12
10	アウトドアショップで必要な英会話（接客・商品説明・電話応対・会計・数字やお金の数え方）	会話と板書による学習	10/19
11	飲食店で必要な英会話（接客・誘導→注文→配膳・予約・会計）	会話と板書による学習	10/26
12	飲食店で必要な英会話（接客・誘導→注文→配膳・予約・会計）	会話と板書による学習	11/2
13	宿泊施設で必要な英会話（受付・誘導・案内）	会話と板書による学習	11/16
14	宿泊施設で必要な英会話（受付・誘導・案内）	会話と板書による学習	11/30
15	5分間の英語発表（ショップ・飲食店・宿泊施設に関する内容）	発表者は事前に準備しておくこと	1/11
16	5分間の英語発表（ショップ・飲食店・宿泊施設に関する内容）	発表者は事前に準備しておくこと	1/18

評価方法・成績評価基準	履修上の注意
出席率と授業態度及び英語発表により評価を行う。 出席率80％未満の場合、原則として成績評価は行わない。 成績評価基準は、優(80点以上)・良(70点以上)・可(60点以上)・不可(59点以下)とする。	増加するインバウンドに対して英語でガイドできる人材が求められています。授業内外で積極的に会話することで語学力を高めてください。

実務経験教員の経歴	日本での英語教師歴10年。インバウンドに対応できるよう最低限の英会話力を習得するよう指導する。

科目名	英会話Ⅲ			授業の方法	演習
担当教員	James Klein		実務授業の有無	○	
対象学科	山岳プロ	対象学年	3	開講時期	通年
必修・選択	必修	単位数		時間数	32時間
授業概要、目的、授業の進め方	海外でコミュニケーションをとるのに必要な英語を学び、最低限の会話力を身につける。また、国際感覚を身に付けるために海外の文化・習慣についても学ぶ。				
学習目標（到達目標）	・ガイディングに必要な語彙力と英会話力を身につける。 ・英会話実習に向けたショップ・飲食店・宿泊施設等で使える英会話を身につける。				
テキスト・教材・参考図書・その他資料	特になし				

回数	授業項目、内容	学習方法・準備学習・備考	
1	語彙力（自然）	会話と板書による学習	4/12
2	語彙力（道具）	会話と板書による学習	4/19
3	語彙力（天気・地形・病気やケガ・体）	会話と板書による学習	4/26
4	ガイディングに必要な英会話（グリーンシーズン）	会話と板書による学習	5/10
5	ガイディングに必要な英会話（スノーシーズン）	会話と板書による学習	5/31
6	ガイディングに必要な英会話（ガイディングの一連の流れ） （挨拶・自己紹介・行程・危険箇所・体調・装備・体操・順番・休憩・水分補給など）	会話と板書による学習	6/7
7	5分間の英語発表（ガイディングに関する内容）	発表者は事前に準備しておくこと	6/14
8	5分間の英語発表（ガイディングに関する内容）	発表者は事前に準備しておくこと	6/21
9	アウトドアショップで必要な英会話（接客・商品説明・電話応対・会計・数字やお金の数え方）	会話と板書による学習	10/11
10	アウトドアショップで必要な英会話（接客・商品説明・電話応対・会計・数字やお金の数え方）	会話と板書による学習	10/18
11	飲食店で必要な英会話（接客・誘導→注文→配膳・予約・会計）	会話と板書による学習	10/25
12	飲食店で必要な英会話（接客・誘導→注文→配膳・予約・会計）	会話と板書による学習	11/1
13	宿泊施設で必要な英会話（受付・誘導・案内）	会話と板書による学習	11/15
14	宿泊施設で必要な英会話（受付・誘導・案内）	会話と板書による学習	11/22
15	5分間の英語発表（ショップ・飲食店・宿泊施設に関する内容）	発表者は事前に準備しておくこと	1/10
16	5分間の英語発表（ショップ・飲食店・宿泊施設に関する内容）	発表者は事前に準備しておくこと	1/17

評価方法・成績評価基準	履修上の注意
出席率と授業態度及び英語発表により評価を行う。 出席率80％未満の場合、原則として成績評価は行わない。 成績評価基準は、優(80点以上)・良(70点以上)・可(60点以上)・不可(59点以下)とする。	増加するインバウンドに対して英語でガイドできる人材が求められています。授業内外で積極的に会話することで語学力を高めてください。

実務経験教員の経歴	日本での英語教師歴10年。インバウンドに対応できるよう最低限の英会話力を習得するよう指導する。

科目名	スポーツ生理学			授業の方法	講義
担当教員	服部正秋		実務授業の有無	×	
対象学科	野外教育・ｱｳﾄﾄﾞｱｽﾎﾟｰﾂ/山岳プロ/ｸﾗｲﾐﾝｸﾞｲﾝｽﾄﾗｸﾀｰ	対象学年	1	開講時期	前期
必修・選択	必修	単位数		時間数	16時間
授業概要、目的、授業の進め方	運動生理学は、運動によって身体にどのような変化が応じるのか、その現象と仕組みについての基礎を理解する学問である。運動中（活動中）に身体の内部がどのような生理学的変化をするのかを学び、運動生理学の知識を身につけることで、体力の向上・健康の維持・増進のための方法について理解する。				
学習目標（到達目標）	相互関係にある基礎体力トレーニング実技で当授業での実践を行い、理論を理解している上で各体力要素が向上しているか定期的に測定、判断する。				
テキスト・教材・参考図書・その他資料	登山の運動生理学百科、A cross-country skier's training based on exercise physiology				

回数	授業項目、内容	学習方法・準備学習・備考
1	運動生理学とは？（筋線維タイプについて（あなたはマグロ系？鯛系？それとも、、、））	テキスト、動画、（持ち物）筆記道具
2	筋力について マッチョなボディビルダーは、マラソンが走れるか？？）	テキスト、動画、（持ち物）筆記道具
3	エネルギー代謝とエネルギー供給系	テキスト、動画、（持ち物）筆記道具
4	①持久力とは？呼吸循環系の持久力（心拍で運動コントロール）	テキスト、動画、実技、心拍計にて実施
5	②持久力とは？筋持久力（登山しよう！トレランしよう！山は天然トレーニングジム）	テキスト、動画、実技、心拍計にて実施
6	効果的な持久トレーニング（最新!!ノルディックフィットネス） 神経について（ 神経が筋肉を司る）	テキスト、動画、実技、ノルディックポール
7	成長過程で考えるトレーニング（継続は力なり！でもやみくもにやってもねぇ、、、）	テキスト、動画、実技
8	登山と疲労。登山と体力トレーニング。（山が好きな人はとっても大事）	テキスト、動画、

評価方法・成績評価基準	履修上の注意
出席率と授業態度により評価を行う。 出席率80％未満の場合、原則として成績評価は行わない。 成績評価基準は、優(80点以上)・良(70点以上)・可(60点以上)・不可(59点以下)とする。	筆記用具、時計

実務経験教員の経歴	各自治体、スポーツクラブ等での講義経歴10年以上、当授業実務経歴8年

科目名	スポーツ栄養学			授業の方法	講義
担当教員	服部正秋		実務授業の有無	×	
対象学科	野外教育・ｱｳﾄﾄﾞｱｽﾎﾟｰﾂ/山岳プロ/ｸﾗｲﾐﾝｸﾞｲﾝｽﾄﾗｸﾀｰ	対象学年	1	開講時期	前期
必修・選択	必修	単位数		時間数	16時間
授業概要、目的、授業の進め方	「スポーツ栄養学」という言葉が生まれたのはごく最近のことです。言葉の通り、一般の人が普段の生活で必要となる食事とスポーツの分野でトップを目指すための食事は全く別のものと言っても過言ではありません。本授業では自分自身の食生活の振り返りと改善策を見つけることを目標とします。				
学習目標（到達目標）	相互関係にある基礎体力トレーニング実技で当授業での実践を行い、理論を理解している上で各体力要素が向上しているか定期的に測定、判断する。				
テキスト・教材・参考図書・その他資料	基礎から学ぶ！　スポーツ栄養学（ベースボールマガジン社）				

回数	授業項目、内容	学習方法・準備学習・備考
1	栄養素と食品の基礎知識 ①　エネルギーになる栄養素　（炭水化物、脂質、タンパク質）	テキスト、動画、（持ち物）筆記道具
2	栄養素と食品の基礎知識 ②　身体をつくる栄養素　（タンパク質、ミネラル）	テキスト、動画、（持ち物）筆記道具
3	栄養素と食品の基礎知識 ③　身体のコンディションを調整する栄養素（ビタミン、水）	テキスト、動画、（持ち物）筆記道具
4	身体のしくみ　～消化のしくみ、代謝・吸収のしくみ～	テキスト、動画、（持ち物）筆記道具
5	エネルギー代謝のしくみ	テキスト、動画、（持ち物）筆記道具
6	コンディショニングのための食事① ～アスリートにとっての食事とは～	テキスト、動画、コンビニ製品、プロテインパウダー
7	コンディショニングのための食事② ～アスリートに必要な栄養素摂取とは～	テキスト、動画、スポーツドリンク、
8	コンディショニングのための食事 ～競技力向上のための栄養摂取～	テキスト、動画、サプリメント、医薬品

評価方法・成績評価基準	履修上の注意
出席率と授業態度により評価を行う。 出席率80％未満の場合、原則として成績評価は行わない。 成績評価基準は、優(80点以上)・良(70点以上)・可(60点以上)・不可(59点以下)とする。	筆記用具、食事は毎日の事です。また競技力向上のためにはトレーニング・休養と同じようにきちんとした栄養摂取が必要となります。栄養素と食品の基本的な知識から、勝つためのスポーツ栄養学を学んでいきます。

実務経験教員の経歴	各自治体、スポーツクラブ等での講義経歴10年以上、当授業実務経歴8年

科目名	基礎体力トレーニングⅠ			授業の方法	実技
担当教員	服部正秋		実務授業の有無	○	
対象学科	野外教育・ｱｳﾄﾄﾞｱｽﾎﾟｰﾂ/自然ガイド・環境保全/山岳プロ	対象学年	1	開講時期	通年
必修・選択	必修	単位数		時間数	32時間
授業概要、目的、授業の進め方	フィールドで活動するために必要な持久力、筋力等の基礎的な体力を身に付けるために、体力・トレーニングに関連する知識を獲得し、トレーニング法の実際を学ぶ。				
学習目標（到達目標）	授業でのトレーニングや課題を通して、呼吸循環持久力、筋持久力、筋力、を付ける				
テキスト・教材・参考図書・その他資料	特になし				

回数	授業項目、内容	学習方法・準備学習・備考
1	オリエンテーション、ランニングコースの確認（ランニング）　トンネル8km　5分歩き5分走り（60%）	（雨天時）ふれあいパーク体育館及びＪＷＳＣトレーニングルーム （持ち物）ランニングシューズ、上履き、タオル、着替え、飲み物
2	ウォーク＆ラン　自分にあったペースを探ろう（運動強度60%以下速歩：70%以上ラン）トンネル8km	（雨天時）ふれあいパーク体育館及びＪＷＳＣトレーニングルーム （持ち物）ランニングシューズ、上履き、タオル、着替え、飲み物
3	ランニングふれパコース　ウォーク＆ラン　姿勢の確認（姿勢作り、ポイント確認）　ふれパ60分	（雨天時）ふれあいパーク体育館及びＪＷＳＣトレーニングルーム （持ち物）ランニングシューズ、上履き、タオル、着替え、飲み物
4	ウォーク＆ラン　自分にあったペースを探ろう（運動強度60%以下：70%以上　）NHMコース	（雨天時）ふれあいパーク体育館及びＪＷＳＣトレーニングルーム （持ち物）ランニングシューズ、上履き、タオル、着替え、飲み物
5	ランニングサーキット（筋持久力＋全身持久力　1度で2度美味しいトレーニング）	（雨天時）ふれあいパーク体育館及びＪＷＳＣトレーニングルーム （持ち物）ランニングシューズ、上履き、タオル、着替え、飲み物
6	ウォーク＆ラン　自分にあったペースを探ろう（運動強度60%以下：70%以上）　NHMコース	（雨天時）ふれあいパーク体育館及びＪＷＳＣトレーニングルーム （持ち物）ランニングシューズ、上履き、タオル、着替え、飲み物
7	下半身サーキットJP系（下半身に特化した筋力トレーニングをしよう）　ふれパ20分×2セット	（雨天時）ふれあいパーク体育館及びＪＷＳＣトレーニングルーム （持ち物）ランニングシューズ、上履き、タオル、着替え、飲み物
8	ジョグ＆ラン　（運動強度60%以下：70%以上）　ふれパ上り100mダッシュ	（雨天時）ふれあいパーク体育館及びＪＷＳＣトレーニングルーム （持ち物）ランニングシューズ、上履き、タオル、着替え、飲み物
9	ラン　自分にあったペースを探ろう（運動強度70%以下）MURA10㎞コース	（雨天時）ふれあいパーク体育館及びＪＷＳＣトレーニングルーム （持ち物）ランニングシューズ、上履き、タオル、着替え、飲み物
10	ラン　まだらお毛無山＆希望湖　トレイルラン	（雨天時）ふれあいパーク体育館及びＪＷＳＣトレーニングルーム （持ち物）ランニングシューズ、上履き、タオル、着替え、飲み物
11	ラン　信越五岳コース　アパ～学校（約8km）　トレイルラン	（雨天時）ふれあいパーク体育館及びＪＷＳＣトレーニングルーム （持ち物）ランニングシューズ、上履き、タオル、着替え、飲み物
12	ラン　信越五岳コース　蔵々～アパ（約5km）　上りトレイルラン	（雨天時）ふれあいパーク体育館及びＪＷＳＣトレーニングルーム （持ち物）ランニングシューズ、上履き、タオル、着替え、飲み物
13	SAQトレーニング＆ラン　ふれパ（体育館）	ふれあいパーク体育館及びＪＷＳＣトレーニングルーム （持ち物）ランニングシューズ、上履き、タオル、着替え、飲み物
14	ラン＆サーキットトレーニング　ふれパ（体育館）	ふれあいパーク体育館及びＪＷＳＣトレーニングルーム （持ち物）ランニングシューズ、上履き、タオル、着替え、飲み物
15	室内での筋力トレーニング（JWSC）	ふれあいパーク体育館及びＪＷＳＣトレーニングルーム （持ち物）ランニングシューズ、上履き、タオル、着替え、飲み物
16	室内での筋力トレーニング（JWSC）	ふれあいパーク体育館及びＪＷＳＣトレーニングルーム （持ち物）ランニングシューズ、上履き、タオル、着替え、飲み物

評価方法・成績評価基準	履修上の注意
出席率と授業態度により評価を行う。 出席率80%未満の場合、原則として成績評価は行わない。 成績評価基準は、優(80点以上)・良(70点以上)・可(60点以上)・不可(59点以下)とする。	・雨が降らなければ屋外でのトレーニングを行います。動きやすい服装、シューズで出席してください。また雨天時は室内でのトレーニングを行うため室内シューズが必要になります。ケガ等でできない場合は前日までに申し出るようにお願いします。

実務経験教員の経歴	各自治体、フィットネスジム、スポーツクラブ等での講義経歴10年以上、当授業実務経歴8年

科目名	基礎体力トレーニングⅡ			授業の方法	実技
担当教員	服部正秋		実務授業の有無	○	
対象学科	山岳プロ	対象学年	2	開講時期	通年
必修・選択	必修	単位数		時間数	32時間
授業概要、目的、授業の進め方	フィールドで活動するために必要な持久力、筋力等の基礎的な体力を身に付けるために、体力・トレーニングに関連する知識を獲得し、トレーニングの実践を行う				
学習目標（到達目標）	授業でのトレーニングや課題を通して、呼吸循環持久力、筋持久力、筋力、を付ける				
テキスト・教材・参考図書・その他資料	特になし				

回数	授業項目、内容	学習方法・準備学習・備考
1	ランニング＆下半身筋力トレーニング（ランジ20～30回） 40分間	ふれあいパーク　グランド （雨天時）ふれあいパーク体育館及びＪＷＳＣトレーニングルーム （持ち物）ランニングシューズ、上履き、タオル、着替え、飲み物
2	ラン＆ウォーク　上りのみ （スノーセット駐車場～上樽本公会堂5km）＊体重の15％の重り	（雨天時）ふれあいパーク体育館及びＪＷＳＣトレーニングルーム （持ち物）ランニングシューズ、上履き、タオル、着替え、飲み物
3	ランニング＆下半身筋力トレーニング（ランジ20～30回） ふれパグランド　40分間　体重の20％重り	ふれあいパーク　グランド （雨天時）ふれあいパーク体育館及びＪＷＳＣトレーニングルーム （持ち物）ランニングシューズ、上履き、タオル、着替え、飲み物
4	ラン＆ウォーク　上りのみ（アパ分岐駐車場～アパまで　5km） ＊体重の20％の重り	（雨天時）ふれあいパーク体育館及びＪＷＳＣトレーニングルーム （持ち物）ランニングシューズ、上履き、タオル、着替え、飲み物
5	ラン　NHM13kmコース（キロ6分平均で=78分）	（雨天時）ふれあいパーク体育館及びＪＷＳＣトレーニングルーム （持ち物）ランニングシューズ、上履き、タオル、着替え、飲み物
6	下半身サーキットJP系（下半身に特化した筋力トレーニングをしよう）　ふれパ20分×2セット	ふれあいパーク　グランド （雨天時）ふれあいパーク体育館及びＪＷＳＣトレーニングルーム （持ち物）ランニングシューズ、上履き、タオル、着替え、飲み物
7	ラン＆ウォーク　上り＆下り （ハートランド妙高～国少まで　片道2.5km）＊体重の15％の重り	（雨天時）ふれあいパーク体育館及びＪＷＳＣトレーニングルーム （持ち物）ランニングシューズ、上履き、タオル、着替え、飲み物
8	室内での筋力トレーニング（JWSC）	ＪＷＳＣトレーニングルーム （持ち物）ランニングシューズ、上履き、タオル、着替え、飲み物
9	ラン　自分にあったペースを探ろう（運動強度70％以下） MURA10kmコース　＊体重の10％の重り	（雨天時）ふれあいパーク体育館及びＪＷＳＣトレーニングルーム （持ち物）ランニングシューズ、上履き、タオル、着替え、飲み物
10	ラン＆ウォーク　上り＆下り （ハートランド妙高～国少まで　片道2.5km）＊体重の20％の重り	（雨天時）ふれあいパーク体育館及びＪＷＳＣトレーニングルーム （持ち物）ランニングシューズ、上履き、タオル、着替え、飲み物
11	ラン＆シャトルラン系　（ふれパグランド）	ふれあいパーク　グランド　（雨天時）ふれあいパーク体育館及びＪＷＳＣトレーニングルーム　（持ち物）ランニングシューズ、上履き、タオル、着替え、飲み物
12	ランニングサーキットorSAQトレーニング　（ふれパ体育館）	ふれあいパーク体育館及びＪＷＳＣトレーニングルーム （持ち物）ランニングシューズ、上履き、タオル、着替え、飲み物
13	室内での筋力トレーニング（JWSC)上半身＆体幹	ふれあいパーク体育館及びＪＷＳＣトレーニングルーム （持ち物）ランニングシューズ、上履き、タオル、着替え、飲み物
14	室内での筋力トレーニング（JWSC)上半身＆体幹	ふれあいパーク体育館及びＪＷＳＣトレーニングルーム （持ち物）ランニングシューズ、上履き、タオル、着替え、飲み物
15	室内での筋力トレーニング（JWSC)上半身＆体幹	ふれあいパーク体育館及びＪＷＳＣトレーニングルーム （持ち物）ランニングシューズ、上履き、タオル、着替え、飲み物
16	室内での筋力トレーニング（JWSC)上半身＆体幹	ふれあいパーク体育館及びＪＷＳＣトレーニングルーム （持ち物）ランニングシューズ、上履き、タオル、着替え、飲み物

評価方法・成績評価基準	履修上の注意
出席率と授業態度により評価を行う。 出席率80％未満の場合、原則として成績評価は行わない。 成績評価基準は、優(80点以上)・良(70点以上)・可(60点以上)・不可(59点以下)とする。	・雨が降らなければ屋外でのトレーニングを行います。動きやすい服装、シューズで出席してください。また雨天時は室内でのトレーニングを行うため室内シューズが必要になります。ケガ等でできない場合は前日までに申し出るようにお願いします。

実務経験教員の経歴	各自治体、フィットネスジム、スポーツクラブ等での講義経歴10年以上、当授業実務経歴8年

科目名	基礎体力トレーニングⅢ			授業の方法	実技
担当教員	服部正秋		実務授業の有無	○	
対象学科	山岳プロ	対象学年	3	開講時期	通年
必修・選択	必修	単位数		時間数	32時間
授業概要、目的、授業の進め方	フィールドで活動するために必要な持久力、筋力等の基礎的な体力を身に付けるために、体力・トレーニングに関連する知識を獲得し、トレーニングの実践を行う				
学習目標（到達目標）	授業でのトレーニングや課題を通して、呼吸循環持久力、筋持久力、筋力、を付ける				
テキスト・教材・参考図書・その他資料	特になし				

回数	授業項目、内容	学習方法・準備学習・備考
1	ランニング＆下半身筋力トレーニング（ランジ20～30回） 40分間	ふれあいパーク　グランド （雨天時）ふれあいパーク体育館及びＪＷＳＣトレーニングルーム （持ち物）ランニングシューズ、上履き、タオル、着替え、飲み物
2	ラン＆ウォーク　上りのみ （スノーセット駐車場～上樽本公会堂5km）＊体重の15％の重り	（雨天時）ふれあいパーク体育館及びＪＷＳＣトレーニングルーム （持ち物）ランニングシューズ、上履き、タオル、着替え、飲み物
3	ランニング＆下半身筋力トレーニング（ランジ20～30回） ふれパグランド　40分間　体重の20％重り	ふれあいパーク　グランド （雨天時）ふれあいパーク体育館及びＪＷＳＣトレーニングルーム （持ち物）ランニングシューズ、上履き、タオル、着替え、飲み物
4	ラン＆ウォーク　上りのみ（アパ分岐駐車場～アパまで　5km） ＊体重の20％の重り	（雨天時）ふれあいパーク体育館及びＪＷＳＣトレーニングルーム （持ち物）ランニングシューズ、上履き、タオル、着替え、飲み物
5	ラン　NHM13kmコース（キロ6分平均で=78分）	（雨天時）ふれあいパーク体育館及びＪＷＳＣトレーニングルーム （持ち物）ランニングシューズ、上履き、タオル、着替え、飲み物
6	下半身サーキットJP系（下半身に特化した筋力トレーニングをしよう）　ふれパ20分×2セット	ふれあいパーク　グランド （雨天時）ふれあいパーク体育館及びＪＷＳＣトレーニングルーム （持ち物）ランニングシューズ、上履き、タオル、着替え、飲み物
7	ラン＆ウォーク　上り＆下り （ハートランド妙高～国少まで　片道2.5km）＊体重の15％の重り	（雨天時）ふれあいパーク体育館及びＪＷＳＣトレーニングルーム （持ち物）ランニングシューズ、上履き、タオル、着替え、飲み物
8	室内での筋力トレーニング（JWSC）	ＪＷＳＣトレーニングルーム （持ち物）ランニングシューズ、上履き、タオル、着替え、飲み物
9	ラン　自分にあったペースを探ろう（運動強度70％以下） MURA10kmコース　＊体重の10％の重り	（雨天時）ふれあいパーク体育館及びＪＷＳＣトレーニングルーム （持ち物）ランニングシューズ、上履き、タオル、着替え、飲み物
10	ラン＆ウォーク　上り＆下り （ハートランド妙高～国少まで　片道2.5km）＊体重の20％の重り	（雨天時）ふれあいパーク体育館及びＪＷＳＣトレーニングルーム （持ち物）ランニングシューズ、上履き、タオル、着替え、飲み物
11	ラン＆シャトルラン系　（ふれパグランド）	ふれあいパーク　グランド　（雨天時）ふれあいパーク体育館及びＪＷＳＣトレーニングルーム　（持ち物）ランニングシューズ、上履き、タオル、着替え、飲み物
12	ランニングサーキットorSAQトレーニング　（ふれパ体育館）	ふれあいパーク体育館及びＪＷＳＣトレーニングルーム （持ち物）ランニングシューズ、上履き、タオル、着替え、飲み物
13	室内での筋力トレーニング（JWSC)上半身＆体幹	ふれあいパーク体育館及びＪＷＳＣトレーニングルーム （持ち物）ランニングシューズ、上履き、タオル、着替え、飲み物
14	室内での筋力トレーニング（JWSC)上半身＆体幹	ふれあいパーク体育館及びＪＷＳＣトレーニングルーム （持ち物）ランニングシューズ、上履き、タオル、着替え、飲み物
15	室内での筋力トレーニング（JWSC)上半身＆体幹	ふれあいパーク体育館及びＪＷＳＣトレーニングルーム （持ち物）ランニングシューズ、上履き、タオル、着替え、飲み物
16	室内での筋力トレーニング（JWSC)上半身＆体幹	ふれあいパーク体育館及びＪＷＳＣトレーニングルーム （持ち物）ランニングシューズ、上履き、タオル、着替え、飲み物

評価方法・成績評価基準	履修上の注意
出席率と授業態度により評価を行う。 出席率80％未満の場合、原則として成績評価は行わない。 成績評価基準は、優(80点以上)・良(70点以上)・可(60点以上)・不可(59点以下)とする。	・雨が降らなければ屋外でのトレーニングを行います。動きやすい服装、シューズで出席してください。また雨天時は室内でのトレーニングを行うため室内シューズが必要になります。ケガ等でできない場合は前日までに申し出るようにお願いします。

実務経験教員の経歴	各自治体、フィットネスジム、スポーツクラブ等での講義経歴10年以上、当授業実務経歴8年

科目名	森林生態環境			授業の方法	講義
担当教員	田辺慎一		実務授業の有無	×	
対象学科	野外教育・ｱｳﾄﾄﾞｱｽﾎﾟｰﾂ/自然ガイド・環境保全/山岳プロ	対象学年	1	開講時期	後期
必修・選択	必修	単位数		時間数	16時間
授業概要、目的、授業の進め方	森林の減少や劣化は、地球環境問題の１つとなっています。それほど悪化してしまった森林の状況が今後も続いた場合何が起るのか？私たちの日々の暮らしに問題がでてくるのか？この授業では、森林の様々な働きやその働きによって私たちが受けるたくさんの恩恵を学びます。また、森林の保全に向けた世界、日本、地域レベルの取り組み事例を紹介し、プロとして自然と関わる幅広い視点を養います。				
学習目標（到達目標）	森林生態系の仕組みや働きについて、説明できる。				
テキスト・教材・参考図書・その他資料	パワーポイント資料使用、その他配布資料。				

回数	授業項目、内容	学習方法・準備学習・備考
1	ガイダンス：森林を学ぶとは？（ブナ林を例に）	パワーポイント資料を使用。
2	森林生態系（物質循環と食物連鎖について）	パワーポイント資料を使用。
3	森林の構造（発達段階、階層構造とパッチ構造）	パワーポイント資料を使用。授業最初に前回授業内容についての「小テスト」を実施。
4	森林の保水機能（土壌の層構造、三相組成、孔隙組成について）	パワーポイント資料を使用。授業最初に前回授業内容についての「小テスト」を実施。
5	森林の動態（森林の撹乱、遷移、更新について）	パワーポイント資料を使用。授業最初に前回授業内容についての「小テスト」を実施。
6	樹木の構造と機能（材、葉、シュート、花、種子について）	パワーポイント資料を使用。授業最初に前回授業内容についての「小テスト」を実施。
7	樹木の生活史戦略（種子、実生、繁殖について）	パワーポイント資料を使用。授業最初に前回授業内容についての「小テスト」を実施。
8	期末テスト	授業内容全般から幅広く出題。

評価方法・成績評価基準	履修上の注意
期末試験点数、出席率、学習意欲で総合的に評価 出席率80％未満の場合、原則として成績評価は行わない。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。	この科目は森林生態学の基礎を学びます。授業の最初に前回授業の内容に関する小テスト（30点満点、18点以上合格）を実施します。復習讐をしっかりするように。期末試験は授業内容全般から幅広く出題されます。出席率80%未満または飢渇試験60点未満は追試となります。

実務経験教員の経歴	北海道大学大学院にて博士号（地球環境科学）を取得。森林生態学の研究者として、4年間研究職（北大、金沢大等）および保全プロジェクトに従事。また、自然系博物館で森林保全研究と地域活性化に2年間従事。森林生態学に関する研究論文（英文、査読付）5本以上。

科目名	フィールド観察			授業の方法	演習
担当教員	田辺慎一/斎藤達也/外部講師		実務授業の有無	○	
対象学科	野外教育・ｱｳﾄﾄﾞｱｽﾎﾟｰﾂ/自然ガイド・環境保全/山岳プロ	対象学年	1	開講時期	通年
必修・選択	必修	単位数		時間数	64時間
授業概要、目的、授業の進め方	妙高に生息する多種多様な生きものを題材として、生き物の基礎的な知識を習得し、自然の仕組みについて理解することを目的とする。				
学習目標（到達目標）	身近に観察できる様々な生物（鳥、植物、昆虫、哺乳類、両生・爬虫類、水生生物、キノコ等）について、種類の同定ができるようになる。				
テキスト・教材・参考図書・その他資料	■新・山野の野鳥　■新・水辺の野鳥　■Field Guide 23 葉で見分ける樹木（増補版） ■新ヤマケイポケットガイド①野の花　■その他配付資料				

回数	授業項目、内容	学習方法・準備学習・備考
1	オリエンテーション＆鳥類（i-nac周辺）	教室でガイダンス後、フィールドに出かけて、野外学習を実施。●授業最後に小テスト実施。
2	ブナ林調査（ブナ開花調査、植物観察）	教室でガイダンス後、フィールドに出かけて、野外学習を実施。●授業最後に小テスト実施。
3	田んぼ・ため池の生物	教室でガイダンス後、フィールドに出かけて、野外学習を実施。●授業最後に小テスト実施。
4	鳥の繁殖活動の観察	教室でガイダンス後、フィールドに出かけて、野外学習を実施。●授業最後に小テスト実施。
5	植物（木、草、つる）①：樹木の同定	教室でガイダンス後、フィールドに出かけて、野外学習を実施。
6	植物（木、草、つる）②：樹木の同定／草本の同定	教室でガイダンス後、フィールドに出かけて、野外学習を実施。●授業最後に小テスト実施。
7	植物（木、草、つる）②：樹木の同定／草本の同定	教室でガイダンス後、フィールドに出かけて、野外学習を実施。●授業最後に小テスト実施。
8	前期期末テスト	期末試験は2種類：①午前：小テストから出題、②午後：樹木の50種同定
9	冬鳥の観察～動物たちはなぜ群れる？～	教室でガイダンス後、フィールドに出かけて、野外学習を実施。●授業最後に小テスト実施。
10	自然観光スポット（赤倉、池の平）の自然観察	フィールドに出かけて、野外学習を実施。
11	自然観光スポット（いもり池）の自然観察（コケ、菌類、粘菌探し）	フィールドに出かけて、野外学習を実施。
12	キノコの観察	教室でガイダンス後、フィールドに出かけて、野外学習を実施。外部講師担当。
13	桑取川に遡上するサケの生態及び採卵加工施設見学	教室でガイダンス後、フィールド・施設に出かけて、野外学習を実施。外部講師担当。
14	晩秋の生き物観察（花房山・高床山）	教室でガイダンス後、フィールドに出かけて、野外学習を実施。●授業最後に小テスト実施。
15	朝日池にて冬鳥（水鳥）の観察	教室でガイダンス後、フィールドに出かけて、野外学習を実施。●授業最後に小テスト実施。
16	冬の生き物観察（哺乳類の足跡・食跡、樹木の冬芽）　花房山・高床山	教室でガイダンス後、フィールドに出かけて、野外学習を実施。●授業最後に小テスト実施。

評価方法・成績評価基準	履修上の注意
出席日数、授業態度、適宜おこなう習熟度テストをもとに総合的に判断する。 出席率80％未満の場合、原則として成績評価は行わない。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。	■授業の最後に小テストを実施する回があります。 ■自然ガイド・環境保全学科は2年次に生物分類技能検定3級を受験しますので、しっかりと生きものを見分けられるようになってください。

実務経験教員の経歴	下記教員がそれぞれの専門を生かして自然観察を通した生き物や自然環境の教育を行う。 田辺：森林生態学の研究者として、6年間研究職および生物多様性保全プロジェクトに従事。国際的な生物多様性調査（International Biodiversity Observation Year：2001-2003の3年間）の運営チームの一員として、マレーシア、インドネシアでの生物調査・生物同定トレーニングコースの開催、ﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄ等を担当。また、自然系博物館に2年間勤務し、自然観察イベントの担当多数。 斎藤：保全生態学研究者として、大学（北海道大学、東京農工大学）および自然系博物館において生物多様性研究に6年間従事。自然系博物館では、自然観察イベントを多数担当。 外部講師①：（財）こしじ水と緑の会の職員として、各種自然観察会やキノコの観察会指導歴多数。 外部講師②：海辺での自然観察会（魚類や他海洋生物の採集、同定、調理等）の指導歴多数。

科目名	自然ガイド基礎	授業形態	対面授業のみ	授業の方法	演習
担当教員	八木 寛之	実務授業の有無	○		
対象学科	自然ガイド・環境保全/自然環境保全/山岳プロ	対象学年	1	開講時期	通年
必修・選択	必修	単位数		時間数	32時間
授業概要、目的、授業の進め方	将来自然の魅力を人に伝えるガイドになるために必要な自然に関する深い知識と、解説方法についての基礎を学ぶ。				
学習目標（到達目標）	季節ごとに特徴的な自然を題材として、その魅力を充分に伝えられるようになることを目標とする。				
テキスト・教材・参考図書・その他資料	参考書や図鑑などの教材については授業の中で適宜紹介する。				

回数	授業項目、内容	学習方法・準備学習・備考
1	[導入～この魅力的な自然の世界へ] 「自然」って何だ？あなたにとって「自然」とは？まずは自問自	フィールド演習：清流公園（担当：八木）
2	[植物群落モニタリング：人間と植生] 人間活動と植生の関わりは？潜在自然植生とは？	フィールド演習：ふれあいパーク（担当：八木）
3	[キーワードはカクラン～河川生態系について～] 変化ありきの特殊な生態系である河川生態系の基礎を学ぶ。	フィールド演習：関川河川敷（担当：八木）
4	[針葉樹林の歩き方] 森林伐採は自然破壊か？人と森の密接な関係について。	フィールド演習：演習林（担当：八木）
5	[データで見る自然：森の測りかた] 自然を数値で把握する。森を測ってその価値を知る。	フィールド演習：妙高青少年自然の家（担当：八木）
6	[水辺の生き物調査] 指標生物とは？水生昆虫等の捕獲調査及び水質判定。	フィールド演習：清流公園（担当：八木）
7	[同定に物語を] 生物や自然環境の背景にある「物語」を語れるようになろう。	仮想自然ガイドのプレゼン資料作成（担当：八木）
8	[まとめ・試験] 発表による試験。	パワーポイントを使った発表(個人)（担当：八木）
9		
10		
11		
12		
13		
14		
15		
16		

評価方法・成績評価基準	履修上の注意
出席率、授業態度、適宜行う課題発表、および最終試験から総合的に評価する。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。	ひとくちに「自然環境」と言っても、対象・立場・目的･･･など様々な条件で、捉え方が変わってきます。これまでと違った視点で新しい発見をしていきましょう。また、その中で、自分の好き・得意なジャンルを見つけて伸ばしていきましょう。

実務経験教員の経歴	八木：環境コンサルタント会社社員等として13年、その後独立起業し11年、保全生態に関する業務(自然再生事業等)に従事している。樹木医、自然再生士。本校での講義は、9年目となる。

科目名	多様性生物学	授業形態	対面授業・遠隔授業併用	授業の方法	講義
担当教員	八木寛之		実務授業の有無	×	
対象学科	自然ガイド・環境保全／自然環境保全／山岳プロ	対象学年	1	開講時期	通年
必修・選択	必修	単位数		時間数	32時間
授業概要、目的、授業の進め方	「生物多様性」･･･それは国際条約であり、我が国の法律及び国家戦略(政策)であり、そして各地の自治体でも基本計画を策定しているモノである。今や一般的によく耳にする自然環境のキーワードであるが、何を意味しているのだろうか？本講義は、自然環境を仕事のフィールドとしていく者として、「生物多様性」が意味するもの、その成り立ち、なぜ守っていかなければならないかを理解・意識できるようになることを目標に進めていきます。				
学習目標（到達目標）	生物多様性という言葉が指す意味と保全上の意義について考え、説明できるようになる。				
テキスト・教材・参考図書・その他資料	テキストは使わないが、授業中に参考図書を紹介する。				

回数	授業項目、内容	学習方法・準備学習・備考
1	生物多様性とは何か？	スライドを使用した学習
2	分類と進化	スライドを使用した学習
3	生命の歴史と種分化	スライドを使用した学習
4	収斂進化と適応放散	スライドを使用した学習
5	生と死～多様な生活史	スライドを使用した学習
6	生物間相互作用と個体群	スライドを使用した学習
7	生物多様性再考	スライドを使用した学習
8	まとめ・試験	スライドを使用した学習(復習)、筆記試験
9	保全遺伝学について	スライドを使用した学習
10	遺伝的多様性について	スライドを使用した学習
11	多様性の様々な要因について	スライドを使用した学習
12	集団の進化と分断化	スライドを使用した学習
13	野生集団の管理について	スライドを使用した学習
14	絶滅の考察	スライドを使用した学習
15	多様性生物学のケーススタディ	スライドを使用した学習
16	まとめ・試験	スライドを使用した学習(復習)、筆記試験

評価方法・成績評価基準	履修上の注意
出席率、授業態度、レポートおよび最終試験から総合的に評価する。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。	どんな生物がこの地球で生きているのか？なぜ多様な生物が生まれてきたのか？生物学・生態学をベースに、様々な具体事例から学んでいきましょう。

実務経験教員の経歴	

科目名	生態学	授業形態	対面授業・遠隔授業併用	授業の方法	講義
担当教員	八木寛之		実務授業の有無	×	
対象学科	自然ガイド・環境保全/自然環境保全／山岳プロ／野外教育・アウトドアスポーツ／キャンプビジネス	対象学年	1	開講時期	前期
必修・選択	必修	単位数		時間数	16時間
授業概要、目的、授業の進め方	自然とは？生態系とは？国内外のテキストや事例を使って、生態学の基礎知識を習得しながら、私たちと自然環境との関係のあり方を探ります。 また、生物多様性保全の推進のために必須である外来種対策および自然再生について、その基本的な考え方を学びます。				
学習目標（到達目標）	生物と環境に関する基礎科目である生態学の一般的なキーワードについて覚え、その内容を理解する。				
テキスト・教材・参考図書・その他資料	テキストは使わないが、授業中に参考図書を紹介する。				

回数	授業項目、内容	学習方法・準備学習・備考
1	[宇宙船地球号 ～私と自然環境～] 自分にとって自然とは？生態学の学習に先立ち、自分と自然環境との関わりを見つめ直す。	スライドを使用した学習
2	[生態学の基礎] 生態学とは？種とは？生物間相互作用とは？	スライドを使用した学習
3	[生物多様性について] 生物多様性とは？なぜ守る必要があるのか？	スライドを使用した学習
4	[生物間相互作用と適応放散] 生物×他の生物×環境	スライドを使用した学習
5	[生物の地理分布と個体群動態] 絶滅の渦、環境容量、成長曲線 等	スライドを使用した学習
6	[ウェットランドの生態系] River Ecosystem-河川生態系の基礎知識- 等	スライドを使用した学習
7	[貴重種と外来種 ～その考え方と実際～] 貴重種の基準、外来種の基準 等	スライドを使用した学習
8	[まとめ・試験]	スライドを使用した学習(復習)、筆記試験
9		
10		
11		
12		
13		
14		
15		
16		

評価方法・成績評価基準	履修上の注意
出席率、授業態度、レポートおよび最終試験から総合的に評価する。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。	自然界には様々な環境があり、そこには色々な生物がいて、相互に影響しあいながら暮らしています。その興味深い関わりにふれてみましょう。その学習のなかで、自分の自然への想いを見つめ直してみましょう。

実務経験教員の経歴	

科目名	インタープリテーション	授業形態	対面授業のみ	授業の方法	演習
担当教員	余頃友康	実務授業の有無	○		
対象学科	自然ガイド・環境保全/自然環境保全/山岳プロ	対象学年	2	開講時期	前期
必修・選択	必修	単位数		時間数	24時間
授業概要、目的、授業の進め方	インタープリテーションに必要な知識・技術を習得することを目的とする。				
学習目標（到達目標）	自身の力でインタープリテーションを企画・実践できるようになること。				
テキスト・教材・参考図書・その他資料	特になし				

回数	授業項目、内容	学習方法・準備学習・備考
1	インタープリテーションとは インタープリテーションのフィールドおよびテーマの検討①	インタープリテーションというものについて座学で指導をする。
2	インタープリテーションの企画書の要素、文献調査の方法 インタープリテーションのフィールドおよびテーマの検討②	インターネットを活用して文献調査の方法などを指導する。
3	インタープリターに必要な基礎的な技術、能力 インタープリテーションのフィールドおよびテーマの決定	インタープリターにはどのような能力が必要か、類似する資格と比較しながら検討する。
4	フィールドの下見 インタープリテーションの構想の発表①	各自発表場所に行き、安全確認やインタープリテーションの素材探しを行う。
5	教室での予行演習 企画書・資料・道具づくり	インタープリテーションのテーマやストーリー、準備の計画等を発表する。教室内で、本番さながらにインタープリテーションを実施する。
6	フィールドでのインタープリテーションの実施①	フィールドに出て、学生が1人ずつ自身のインタープリテーションを行う。
7	フィールドでのインタープリテーションの実施②	フィールドに出て、学生が1人ずつ自身のインタープリテーションを行う。
8	フィールドでのインタープリテーションの実施③	フィールドに出て、学生が1人ずつ自身のインタープリテーションを行う。
9		
10		
11		
12		
13		
14		
15		
16		

評価方法・成績評価基準	履修上の注意
出席率80%未満の場合、原則として成績評価は行わない。 発表資料の内容、出席率、授業姿勢、授業内での積極的な発言等、総合的に評価を行う。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。	初めてのフィールドにおいても、インタープリテーションを実施するための文献調査、フィールド調査、コース設定などを自分で行える技能が身に付きます。 この技能は様々なフィールドや状況で応用でき役立ちます。

実務経験教員の経歴	野外教育の指導に24年間従事。

科目名	地球環境科学			授業の方法	講義
担当教員	田辺慎一		実務授業の有無	×	
対象学科	野外教育・ｱｳﾄﾄﾞｱｽﾎﾟｰﾂ/自然ガイド・環境保全/山岳プロ	対象学年	2	開講時期	後期
必修・選択	必修	単位数		時間数	16時間
授業概要、目的、授業の進め方	地球や地域の環境をとりまく諸問題と、その解決に向けた社会、経済的な取組を幅広く学ぶ。授業では、毎回学生が決定したテーマについて発表し、その後、発表した内容やテーマについてのディベートを行う形式とし、自ら考え、他者に意見を述べるプロセスを通して「伝える」スキルの向上を目指す。				
学習目標（到達目標）	①地球環境や地域の問題を当事者の視点から身近な問題として理解できる。②豊かな自然やその恵みにあずかっている私たちの暮らしが、今後もよりよい状態で続いていくために何をすべきなのか、何ができるのかについて自ら考えることができる。				
テキスト・教材・参考図書・その他資料	パワーポイント資料を学生が作成し発表。				

回数	授業項目、内容	学習方法・準備学習・備考
1	授業ガイダンス、環境問題グループワーク、発表テーマの決定（各学生）	地球環境問題について、各自まとめ、グループデスカッション後、発表する。
2	学生が選んだテーマについて、調べた内容をppt等で発表、ディベート①	地球環境問題に関するテーマを各自決定し、パワーポイントでまとめてきた内容を発表する。聴講者は「コメントシート（A5）」に自分の意見をまとめ記入する。
3	学生が選んだテーマについて、調べた内容をppt等で発表、ディベート②	地球環境問題に関するテーマを各自決定し、パワーポイントでまとめてきた内容を発表する。聴講者は「コメントシート（A5）」に自分の意見をまとめ記入する。
4	学生が選んだテーマについて、調べた内容をppt等で発表、ディベート③	地球環境問題に関するテーマを各自決定し、パワーポイントでまとめてきた内容を発表する。聴講者は「コメントシート（A5）」に自分の意見をまとめ記入する。
5	学生が選んだテーマについて、調べた内容をppt等で発表、ディベート④	地球環境問題に関するテーマを各自決定し、パワーポイントでまとめてきた内容を発表する。聴講者は「コメントシート（A5）」に自分の意見をまとめ記入する。
6	学生が選んだテーマについて、調べた内容をppt等で発表、ディベート⑤	地球環境問題に関するテーマを各自決定し、パワーポイントでまとめてきた内容を発表する。聴講者は「コメントシート（A5）」に自分の意見をまとめ記入する。
7	学生が選んだテーマについて、調べた内容をppt等で発表、ディベート⑥	地球環境問題に関するテーマを各自決定し、パワーポイントでまとめてきた内容を発表する。聴講者は「コメントシート（A5）」に自分の意見をまとめ記入する。
8	学生が選んだテーマについて、調べた内容をppt等で発表、ディベート⑦	地球環境問題に関するテーマを各自決定し、パワーポイントでまとめてきた内容を発表する。聴講者は「コメントシート（A5）」に自分の意見をまとめ記入する。

評価方法・成績評価基準	履修上の注意
発表資料の内容、出席率、授業姿勢、授業内での積極的な発言等、総合的に評価を行います。 出席率80％未満の場合、原則として成績評価は行わない。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。	地球環境問題の中から、各自テーマを決定し、パワーポイントにまとめてきた内容を発表してもらいます。聴講側となった学生は「コメントシート（A5）」に自分の意見をまとめ記入し、グループ内で発表および討論をしてもらいます。

実務経験教員の経歴	北海道大学大学院にて博士号（地球環境科学）を取得。森林生態学の研究者として、4年間研究職（北大、金沢大等）および保全プロジェクトに従事。また、自然系博物館で森林保全研究と地域活性化に2年間従事。森林生態学に関する研究論文（英文、査読付）5本以上。

科目名	動物行動学			授業の方法	講義
担当教員	山口　勇気		実務授業の有無	×	
対象学科	野外教育・ｱｳﾄﾄﾞｱｽﾎﾟｰﾂ/自然ガイド・環境保全/山岳プロ	対象学年	2	開講時期	後期
必修・選択	必修	単位数		時間数	16時間
授業概要、目的、授業の進め方	動物の行動が自然淘汰のメカニズムを通じて進化してきた事実を理解し、生きものに見られる不思議な行動も進化という観点から考えるとよく理解できることを伝えます。また、動物の行動だけでなく、生きものの生態・形態等も進化のプロセスを経て形づくられてきたことを理解することで、自然を見る目を養うことも目的としています。				
学習目標（到達目標）	動物行動学の観点から、生物を考えることができるようになる。				
テキスト・教材・参考図書・その他資料	テキストは使いませんが、必要な資料は授業中にプリントとして配布します。				

回数	授業項目、内容	学習方法・準備学習・備考
1	ティンバーゲンの４つの質問法：インタープリテーションとの関連 自然選択による進化のメカニズムと進化の実例、動物の行動の進化	スライド・板書を使用した学習
2	動物行動学のなぞ：自然淘汰では説明できない？行動の実例 どうして子供を殺すのか？：ライオン、チンパンジーの研究から	スライド・板書を使用した学習
3	利他行動の不思議 警戒声は誰のため？	スライド・板書を使用した学習
4	お手伝い（ヘルパー）行動は何のため？ フロリダヤブカケスの研究から	スライド・板書を使用した学習
5	真社会性昆虫（ハチ・アリ）の謎： ワーカー（働きバチ・働きアリ）はなぜ自分で繁殖しないのか？	スライド・板書を使用した学習
6	動物行動学のなぞ：自然淘汰では説明できない？進化　⇒　性選択 カブトムシやシカの角はなぜメスにはないのか？	スライド・板書を使用した学習
7	性選択の実例 クジャクなど鳥のオスの綺麗な羽はなぜメスにはないのか？	スライド・板書を使用した学習
8	性選択を説明する理論 優良遺伝子仮説（ﾊﾝﾃﾞｨｷｬｯﾌﾟ、ﾊﾟﾗｻｲﾄ仮説）、ﾗｲﾝﾅｳｪｲ仮説ほか	スライド・板書を使用した学習。生物スケッチの実践。

評価方法・成績評価基準	履修上の注意
出席率、授業態度、最終試験から総合的に評価します。 出席率80％未満の場合、原則として成績評価は行わないません。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。	

実務経験教員の経歴	

科目名	キャンプ実習			授業の方法	実習
担当教員	小野 彰太、吉田 理史		実務授業の有無	○	
対象学科	野外教育・ｱｳﾄﾄﾞｱｽﾎﾟｰﾂ/自然ガイド・環境保全/山岳プロ/ｸﾗｲﾐﾝｸﾞｲﾝｽﾄﾗｸﾀｰ	対象学年	1	開講時期	前期
必修・選択	必修	単位数		時間数	32時間
授業概要、目的、授業の進め方	2泊3日のキャンプ活動を通して、以下の目標および技術習得を達成しi-nacにおける野外活動の基礎を構築することを目的とする。なお、本実習は日本キャンプ協会公認キャンプインストラクター養成講習会を兼ねて実施される。				
学習目標（到達目標）	・バックパッキングに必要な技術の習得 ・ コミュニケーション、リーダーシップの重要性を認識する ・ 現時点での自分の力量・課題を明確にする				
テキスト・教材・参考図書・その他資料	山と渓谷社「ヤマケイ・テクニカルブック登山技術全書②トレッキング縦走登山」				

回数	授業項目、内容	学習方法・準備学習・備考
1	オリエンテーション、アイスブレイク、目標設定、装備・食材準備、登山計画作成	講義、グループワーク（個人作業⇒グループ共有⇒全体共有）、分担作業（食材準備、装備準備）
2	実習地移動、キャンプ場オリエンテーション、テント・タープ設営、野外炊事①、ナビゲーション講習（整地、磁北線、山座同定、ストレートハイク）	講義、実地演習、振り返り・グループワーク
3	野外炊飯②、バックパッキングオリエンテーション（キャンプ場～スキー場周辺～戸隠奥社周辺）、野外炊飯③、キャンプファイヤー	実地演習、グループワーク、振り返り
4	野外炊飯④、撤収（テント・タープ、食器、清掃）、実習総括	実地演習、ふりかえり、レポート作成

評価方法・成績評価基準	履修上の注意
出席率、授業姿勢、振り返りシートによる自己評価、実習中の発表内容、実習後レポートから総合的に評価を行います。 出席率80％未満の場合、原則として成績評価は行わないません。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。	技術習得については、振り返りシートにより自己評価及び、班内のメンバーによる他者評価を行い多角的に評価を行います。ソフト（メタ）スキルについては、活動毎に振り返りの時間を設けグループ単位で分析、一般化のプロセスを重視します。 実習の事前、事後で自らの課題を内省させ、発表させます。実習後には、レポート作成を課し、自らの課題と力量を記録として残します。

実務経験教員の経歴	下記教員が、野外活動の基礎技術の教育を行う。 小野：i-nac生涯学習室担当。企業のﾁｰﾑﾋﾞﾙﾃﾞｨﾝｸﾞや様々な組織ｷｬﾝﾌﾟ（対象：児童、大学生、社会人、親子）、ｱｳﾄﾄﾞｱｽﾎﾟｰﾂ体験（ｶﾔｯｸ等）での企画・運営歴4年。国内ｱｳﾄﾄﾞｱﾒｰｶｰ（モンベル）でｱｳﾄﾄﾞｱ用品の販売に2年間従事。 吉田：野外教育の企画・運営・指導を行う株式会社信州ｱｳﾄﾄﾞｱﾌﾟﾛｼﾞｪｸﾄ所属、（公社）日本ｷｬﾝﾌﾟ協会指導者養成委員、企業のﾁｰﾑﾋﾞﾙﾃﾞｨﾝｸﾞや様々な組織ｷｬﾝﾌﾟ（対象：児童、大学生、社会人、親子）指導歴10年以上。

科目名	森林管理実習			授業の方法	実習
担当教員	余頃友康		実務授業の有無	○	
対象学科	野外教育・ｱｳﾄﾄﾞｱｽﾎﾟｰﾂ/自然ガイド・環境保全/山岳プロ	対象学年	1	開講時期	後期
必修・選択	必修	単位数		時間数	32時間
授業概要、目的、授業の進め方	安全にチェーンソーや刈払機を操作し、樹木の伐倒や草木の刈り払いを行えるようにするため、「林業・木材製造業労働災害防止協会」が発行する教科書に即して、学科および実技の講習を行う。				
学習目標（到達目標）	安全にチェーンソーや刈払機を操作し、樹木の伐倒や草木の刈払いを行えるようになること。				
テキスト・教材・参考図書・その他資料	チェーンソー作業の安全ナビ、安全な刈払機作業のポイント				

回数	授業項目、内容	学習方法・準備学習・備考
1	伐木造材講習（3日間の内、1日目）	教科書に即して学科および実技の講習を行う。
2	伐木造材講習（3日間の内、2日目）	教科書に即して学科および実技の講習を行う。
3	伐木造材講習（3日間の内、3日目）	教科書に即して学科および実技の講習を行う。
4	刈払機取扱作業者に対する安全衛生教育	教科書に即して学科および実技の講習を行う。

評価方法・成績評価基準	履修上の注意
発表資料の内容、出席率、授業姿勢、授業内での積極的な発言等、総合的に評価を行う。 出席率80％未満の場合、原則として成績評価は行わない。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。	森林を管理するためには、チェーンソーや刈払機の使用は不可欠です。 これらの器具の適切な利用方法、作業時の安全確保について理解することは非常に大切です。

実務経験教員の経歴	長野県等における林業の現場に20年間従事。現在、森林整備や伐採に関する事業や森林環境についての教育を展開。本科目では、林業現場におけるチェーンソーや刈払機の使用方法や森林整備に関する教育を行う。

科目名	雪上スポーツ			授業の方法	実習
担当教員	服部正秋/田辺慎一/外部講師		実務授業の有無	○	
対象学科	野外教育・ｱｳﾄﾄﾞｱｽﾎﾟｰﾂ/自然ガイド・環境保全/山岳プロ	対象学年	1	開講時期	後期
必修・選択	必修	単位数		時間数	32時間
授業概要、目的、授業の進め方	冬期野外活動の代表的な種目であるアルペンスキー、クロスカントリースキーの技術の向上、知識の獲得を通じて、積雪期における野外活動への理解を深めることを目的とする。				
学習目標（到達目標）	アルペン：各自の技術レベルに応じて設定。 ①ﾌﾟﾙｰｸﾎﾞｰｹﾞﾝでｽｷｰ場の初級者ｺｰｽを滑走できる。 ②ﾊﾟﾗﾚﾙﾀｰﾝでｽｷｰ場の中級者ｺｰｽを滑走できる。				
テキスト・教材・参考図書・その他資料	事前に「受講調査票」を配布。その他資料を適宜配布。				

回数	授業項目、内容	学習方法・準備学習・備考
1	■i-nac出発（公用車に積み込み、乗込み） ■班別に講習 ■スキー場出発（公用車に積込み、乗込み） ■i-nac着・事務連絡後解散	■実施場所：杉ノ原スキー場 ■活動班：習得レベル別（下記4段階）に分けられた班ごとに活動 ア．はじめて。 イ．ﾌﾟﾙｰｸﾎﾞｰｹﾞﾝでｽｷｰ場の初級者ｺｰｽを滑走できる。 ウ．ﾊﾟﾗﾚﾙﾀｰﾝでｽｷｰ場の中級者ｺｰｽを滑走できる。 エ．ｽｷｰ場の上級者ｺｰｽで安定した滑走ができる。 ■装備：□スキー　□ブーツ　□スキーポール □雪上活動用ウェア（厚手）☒帽子（ニット）☒ □グローブ　□ゴーグル　□昼食 □日焼け止め等その他必要なもの ■チケット手配に関して ＊スキー場での3日間は、杉ノ原スキー場のシーズンパスを持っている学生（もしくはスーパーシーズン券等持っていて使用できる学生）はそれを使ってください。 ＊また19歳の学生は杉の原スキー場が平日リフト無料になります。（平成11年4月2日～平成12年4月1日生まれ） ※対象者は、19歳になる前でも利用可能 登録がありますので、該当する学生で利用したい学生は、実習前までに必ず登録しておいてください。 https://majibu.jp/yukimaji19/pc/about/ ＊シーズンパスを持っていない学生、または20歳リフト券無料に該当しない学生に関しましては、1日券×3日分を当日、自分でスキー場で購入してもらいます。
2	■i-nac出発（公用車に積み込み、乗込み） ■班別に講習 ■スキー場出発（公用車に積込み、乗込み） ■i-nac着・事務連絡後解散	
3	■i-nac出発（公用車に積み込み、乗込み） ■班別に講習 ■スキー場出発（公用車に積込み、乗込み） ■i-nac着・事務連絡後解散	
4	■i-nac出発（公用車に積み込み、乗込み） ■クロスカントリーコースにて講習 ■i-nacにて解散	■実施場所：黒姫XCスキー場 ■クロスカントリースキーの道具はレンタルをこちらで手配します。 ■装備：□ ウインドブレーカーもしくはレインウエアのような薄手の上下ウエア（防寒対策として厚手のウエアも念のため持ってきてください） □着替え（Tシャツ、インナー等　天気が良ければかなり汗をかきます）　□サングラス（ゴーグルだとくもります） □手袋（薄手の物、登山用グローブ、毛糸の手袋、作業用グローブなど）　□日焼け止め　□昼食　□飲み物等

評価方法・成績評価基準	履修上の注意
出席率、授業姿勢、実技習得レベル等、総合的に評価を行います。 出席率80％未満の場合、原則として成績評価は行わない。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。	■受講生は別紙、「受講調査票」を提出してください。 ■アルペンスキーではゲレンデでのスキー基本的技術を学ぶので、可能な限りファットスキー、テレマーク以外のスキーを持ってきてください。 ■装備の準備について不安がある学生は早めに相談してください。安全管理上、装備が不十分の学生の受講は認めません。 ■特に初心者は、ヘルメットの着用を強く推奨します。

実務経験教員の経歴	■服部：クロスカントリースキー競技歴30年以上、国体出場10回　■田辺：スキー歴30年以上、指導歴10年以上　■外部講師：スキースクール講師

科目名	雪上キャンプ実習			授業の方法	実習
担当教員	田辺慎一/小野彰太		実務授業の有無	○	
対象学科	野外教育・ｱｳﾄﾄﾞｱｽﾎﾟｰﾂ/自然ガイド・環境保全/山岳プロ	対象学年	1	開講時期	後期
必修・選択	必修	単位数		時間数	32時間
授業概要、目的、授業の進め方	雪上での諸活動（スノーシューハイク、キャンプ生活等）を通して、冬期活動の基本的なノウハウや安全管理について学ぶ。 ■活動内容　①雪上で2泊のキャンプ実践　（ベースキャンプの設営および雪上での野外炊飯などを行う）②スノーシューでの行動、安全・確実なルートファインディングを行う。③クインジー（雪洞）を作って泊まる実践				
学習目標（到達目標）	① 雪上でのテントをつかった幕営を、安全に行うことができる　②安全かつ居住性のあるクインジー（雪洞）を設営することができる　③地形図を見ながら、尾根と沢を区別し、確実なルートファインディングができる　④雪上キャンプでの炊事を、仲間と協力しながら効率良く行える				
テキスト・教材・参考図書・その他資料	2万5千地図を配布。その他配布資料。				

回数	授業項目、内容	学習方法・準備学習・備考
1	■ 講義（306室）■装備チェック■雪洞づくり講習（4Xコースor自然の家）■ 共同装備等振り分け・食料買い出し	班別にグループワーク（雪上活動のリスクについてディスカッション、装備チェック、装備振り分け等）
2	■ inac集合、出発■ﾍﾞｰｽｷｬﾝﾌﾟ着&テン場設営開始■夕食準備■夕食&ミーティング	班毎に準備ができ次第、出発。その後も班別に活動（引率教員は、各班に1名）。
3	■起床・朝食準備■朝食■テン場発■宿泊地点着　雪洞づくり　■夕食準備■ 夕食&ミーティング	班毎に準備ができ次第、出発。その後も班別に活動（引率教員は、各班に1名）。
4	■起床・朝食準備■朝食■テン場発■inac着　後片付け■ ふりかえり■解散	班毎に準備ができ次第、出発。その後も班別に活動（引率教員は、各班に1名）。学校に戻ってからの振り返りは、全員そろってから開始します。
出席率、授業姿勢、実習目標4点の自己評価結果、事後レポート等、総合的に評価を行います。 出席率80％未満の場合、原則として成績評価は行わない。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。		■事後レポート課題：実習目標4項目それぞれについて点数（各項目25点満点）をつけ考察する。実習での反省をふまえて、自分自身に足りなかったことや今後身につけるべきことなどを考えながら、実習の感想も含めたレポートを作成すること。Wordを使用、A4用紙2ページ以上（文字数は1,600文字以上）

実務経験教員の経歴	下記教員が、雪上での野外生活技術に関する教育を行う。 田辺：大学山岳部5年間（北海道日高山脈が主な活動地域、冬期縦走経験多数）。 小野：i-nac生涯学習室担当。企業のﾁｰﾑﾋﾞﾙﾃﾞｨﾝｸﾞや様々な組織ｷｬﾝﾌﾟ（対象：児童、大学生、社会人、親子）、ｱｳﾄﾄﾞｱｽﾎﾟｰﾂ体験（ｶﾔｯｸ等）での企画・運営歴4年。国内ｱｳﾄﾄﾞｱﾒｰｶｰ（モンベル）でｱｳﾄﾄﾞｱ用品の販売に2年間従事。

科目名	アウトドアスポーツ実習（MTB）			授業の方法	実習
担当教員	田辺慎一/外部講師		実務授業の有無	○	
対象学科	野外教育・ｱｳﾄﾄﾞｱｽﾎﾟｰﾂ/山岳プロ	対象学年	3	開講時期	後期
必修・選択	選択必修	単位数		時間数	32時間
授業概要、目的、授業の進め方	①サイクルツーリングに関する基礎知識・技術の習得（ロングツーリング・トレイルライド・輪行・マナー・装備など）　②地形・路面（ダウンヒル、ヒルクライム、コーナー、トレイル）に対応したライディング技術（フォーム、ポジショニング、バランス、ペダリング、ブレーキング、コーナリング等）の向上　③基本的なバイクメンテナンス技術の習得　④サイクルスポーツを活用した町づくり・観光の現状について考察する				
学習目標（到達目標）	MTB体験の指導やツアープログラムの企画・ガイドに必要な専門知識・技術を習得し、アウトドアスポーツの視野を広げる				
テキスト・教材・参考図書・その他資料	日誌を配布。				

回数	授業項目、内容	学習方法・準備学習・備考
1	実習ガイダンス、使用バイク配車、バイク/ヘルメットチェック・調整、ライディング講習、ホイール着脱・輪行講習、ふれPトレイル走、パンク修理、MTBの種類（講習）	ライディング技術の学習・実践 バイクメンテナンス方法の学習・実践
2	ツーリング実践	ヒルクライム、トレイルライド、ダウンヒル、公道を利用したロングライドなど、MTBの様々な楽しみ方を実線を通して学ぶ
3	ツーリング実践	ヒルクライム、トレイルライド、ダウンヒル、公道を利用したロングライドなど、MTBの様々な楽しみ方を実線を通して学ぶ
4	ツーリング実践	ヒルクライム、トレイルライド、ダウンヒル、公道を利用したロングライドなど、MTBの様々な楽しみ方を実線を通して学ぶ

評価方法・成績評価基準	履修上の注意
出席率、授業姿勢、実習中の習熟レベル、日誌等、総合的に評価を行います。 出席率80％未満の場合、原則として成績評価は行わない。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。	■装備：運動できる服装・デイパック（25Ｌ以上）・グローブ（軍手ＯＫ）・タオル・雨具・着替え・ゴーグル（サングラス）・ボトル（飲み物）・ツーリング時の行動食（アミノバイタル系がお勧め）・ウエス（メンテナンス用） ■日誌：実習4日間、毎日の活動等を記録し、後日提出。

実務経験教員の経歴	下記教員・講師がMTBやロングツーリングの技術指導を行う。 田辺：MTB等サイクルスポーツ歴6年（200km以上のロングツーリング経験多数、MTBでのトレイルライド経験豊富）　　外部講師：MTB歴5年以上、MTB技術指導歴多数

科目名	アウトドアスポーツ実習（フィットネス）			授業の方法	実習
担当教員	丸山さき／服部正秋		実務授業の有無	○	
対象学科	野外教育・ｱｳﾄﾄﾞｱｽﾎﾟｰﾂ/自然ガイド・環境保全/山岳プロ	対象学年	2	開講時期	前期
必修・選択	必修	単位数		時間数	40時間
授業概要、目的、授業の進め方	①日常の生活に取り入れやすいノルディックウォーキングやヨガの知識や実際を学び、自身の健康増進のフィットネスとして理解を深める。 ②アウトドアスポーツの中で、人気が高まっているトレイルランニングの知識や技術を学ぶ事で、これからのアウトドアスポーツ業界の動向を深めると共に、実際にレースに参加しトレイルランニングの魅力を学ぶ。 ③現代社会の中で健康志向が高まっている理由とその重要性を理解し、アウトドアスポーツから現代の健康問題について考える。				
学習目標（到達目標）	昨今の現代社会における「ライトアウトドアスポーツ」のニーズの理解（レポート、実践）				
テキスト・教材・参考図書・その他資料	斑尾トレイルランニングマップ、トレイルランニングDVD、日本ノルディックフィットネス協会アクテビティリーダーテキスト、ノルディックポール				

回数	授業項目、内容	学習方法・準備学習・備考
	【1日目】トレイルランニング概要 ①実際にトレイルを走ってみよう!! （トレイルで実践的なテクニックを学ぶ） （２６ｋｍコースを下見します） ②How toトレイルランニング （身体の使い方/上り下りの走り方/トレーニング方法/レースでの心構え） 【2日目】ヨガ ＊9:30～11:30　ヨガ実践とヨガの動向【市場】について ＊11:30～13:00　昼食 現代社会での健康問題について。 【3日目】ノルディックウォーキング概要 （ノルディックウォーキングAL養成講座） ①ノルディックウォーキングの知識と実際 （ヘルスレベル・フィットネスレベル・スポーツレベル） ②ノルディックフィットネスの実際 （ウォーミングアップ・クールダウン・筋トレ・コーディネーション） 【4日目】・レースデビュー!! トレイルランニングレースに出場しよう!! 斑尾トレイルランニングレースに参加し、レース、イベントの雰囲気を実際に肌で感じながら思いっきり楽しもう！また自身の体力の限界を知ることで今後の身体づくりの必要性を知ろう！	・筆記用具 ・短パンもしくはスパッツ（七分・ロングなんでも良い） ・Tシャツもしくはロング T・ランニングでも可（化繊） ・日よけ（帽子・サンバイザー・サングラスなど） ・トレイルランニングシューズ（もしくはランニングシューズ） ・トレイル専用小型リュックサック（もしくは小型のサックできるだけ小さいもの） ・くま鈴（ある人は持ってきてください） ・行動食（小型ザックに入れていきます） ・水分（トレラン中に補給するもの。終了後に補給するもの2つあったほうが良い） ・防寒着（薄手のウインドブレーカー、レインジャケットなど） ・着替え等（多少の雨でも行いますし、汗をかくと思います。終わった後の着替え） ・虫除け（なくてもいいですが、あったほうがいい）

評価方法・成績評価基準	履修上の注意
出席率と授業態度及び提出書類（レポート）により評価を行う。 出席率80％未満の場合、原則として成績評価は行わない。 成績評価基準は、優(80点以上)・良(70点以上)・可(60点以上)・不可(59点以下)とする。	

実務経験教員の経歴	各自治体、フィットネスジム、スポーツクラブ等での講義経歴10年以上、当授業実務経歴8年 ノルディックフィットネス：国際ノルディックウォーキング連盟ナショナルトレーナー ヨガ：米国ヨガアライアンス　イシュタヨガ認定インストラクター（E-RYT500）

科目名	リスクマネジメント			授業の方法	実習
担当教員	大澤実／西海太介		実務授業の有無	○	
対象学科	野外教育・ｱｳﾄﾄﾞｱｽﾎﾟｰﾂ/自然ガイド・環境保全/山岳プロ	対象学年	1	開講時期	前期
必修・選択	必修	単位数		時間数	32時間
授業概要、目的、授業の進め方	野外での活動時に生じる様々な「リスク」について、把握、分析し適切にコントロールするために必要なスキルを身に付けることを目的とする。 本授業では、リスクに対する個別の対処法（搬送法、救急法等）の習得ではなく、状況把握や状況判断を適切に行い、事故を予防するための一連のプロセスについて学ぶ。また、自然界での危険な動植物等への知見を広め、その対策や対処法等を学ぶ				
学習目標（到達目標）	自分自身と他者のリスクの「発見」「把握」「分析」「対処」の違いを理解すること				
テキスト・教材・参考図書・その他資料	外部講師の用意した資料を使用				

回数	授業項目、内容	学習方法・準備学習・備考
	【1日目】 「リスクの発見・把握および評価・分析」 教室での講義、学校周辺のフィールド（清流公園等）でのイニシアティブゲーム等の実技を通してリスクのアセスメントについて学びます。 【2日目】 「危険生物対策について」講義 【3日目】 「リスクの発見・把握および評価・分析」 1日目と同様の内容を実施します。 「リスクのコントロール」 教室での講義、学校周辺のフィールドでのイニシアティブゲーム等の実技を通してリスクのコントロールについて学びます。 【4日目】 沢登り（予定）の実技を通してリスクのコントロールについて学びます。	※天候等によりスケジュールを変更することがあります ※毎日野外で活動できる服装で参加してください。 ※４日目については昼食を持参してください ＊筆記用具

評価方法・成績評価基準	履修上の注意
出席率と授業態度及び提出書類（レポート）により評価を行う。 出席率80％未満の場合、原則として成績評価は行わない。 成績評価基準は、優(80点以上)・良(70点以上)・可(60点以上)・不可(59点以下)とする。	

実務経験教員の経歴	各講師の事業にて実務経験5年以上、当授業実務経験5年 一般社団法人アウトドアソリューション　　一般社団法人セルズ環境デザイン研究所

科目名	ウィルダネスファーストエイド			授業の方法	実習
担当教員	林 智加子		実務授業の有無	○	
対象学科	野外教育・ｱｳﾄﾄﾞｱｽﾎﾟｰﾂ/自然ガイド・環境保全/山岳プロ/ｸﾗｲﾐﾝｸﾞｲﾝｽﾄﾗｸﾀｰ	対象学年	2	開講時期	前期
必修・選択	必修	単位数		時間数	50時間
授業概要、目的、授業の進め方	緊急医療体系へと引き継ぐまでに時間のかかる状況での野外救急法を学び、さまざまな身体機能の問題や障害から引き起こされるトラブルや、野外における環境やストレスからくる怪我や体調不良に対処する応急知識・技術を習得する。なお、本実習はスリップストリームジャパンが認定するWFA（Wilderness first Aid）50時間コースの認定講習会を兼ねて実施される。				
学習目標（到達目標）	WFA（Wilderness first Aid）50時間コースの認定合格				
テキスト・教材・参考図書・その他資料	スリップストリームジャパン「フィールドブック」 MSDマニュアル家庭版（https://www.msdmanuals.com/ja-jp/ホーム）				

回数	授業項目、内容	学習方法・準備学習・備考
1	オリエンテーション、総論（学習領域、法律）、感染、包帯・三角巾、大出血、ショックと予防	講義、演習、復習（課題）
2	傷病者記録シート、骨折（頭部、背骨、胸部、骨盤、四肢）、頭部のケガ、腹部のケガ、各種対応方法、アセスメントシステム	講義、演習、ロールプレイ、復習（課題）
3	リスクマネジメント、傷（破傷風）、火傷、日焼け、マメ、脱水症状、溺水、心臓発作、脳卒中、一酸化炭素中毒、低体温症、各種対応方法	講義、演習、ロールプレイ、復習（課題）
4	凍傷、高温障害（熱疲労、熱中症）、目・鼻のケガ、アレルギー（アナフィラキシーショック）、薬について、脱臼、シナリオトレーニング	講義、演習、ロールプレイ
5	筆記テスト、搬送方法、シナリオトレーニング、総括、結果発表	演習、ロールプレイ

評価方法・成績評価基準	履修上の注意
出席率、授業姿勢、筆記試験（マークシート）、実地演習の内容、講習認定の合否など総合的に評価。 出席率80％未満の場合、原則として成績評価は行わない。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。	講習は50時間の履修が必須となります。実習中、遅刻、早退、欠席には留意し自己管理を行うこと。 実習ガイダンスで告知される事前学習、準備物を全て確認し取り組むこと。知識が不足している場合、実習に参加できない可能性もあります。また、実習中課された復習課題にも積極的に取り組むこと。

実務経験教員の経歴	スリップストリームジャパン公認インストラクター。登山ツアーSoleil代表。 日本山岳ガイド協会登山＆スキーガイド　ステージⅡ、日本雪崩ネットワーク雪崩業務従事者　レベル2を有し、2014年よりガイド業、WFA講習会講師を務める。

科目名	上級救命講習	授業形態	対面授業のみ	授業の方法	演習
担当教員	外部講師		実務授業の有無	○	
対象学科	野外教育・ｱｳﾄﾄﾞｱｽﾎﾟｰﾂ/キャンプビジネス/自然ガイド・環境保全/自然環境保全/山岳プロ/ｱｳﾄﾄﾞｱﾌﾟﾛｲﾝｽﾄﾗｸﾀｰ	対象学年	1	開講時期	前期
必修・選択	必修	単位数		時間数	8時間
授業概要、目的、授業の進め方	人工呼吸法、心肺蘇生法、AEDの使用法、止血法等の習得及び救急車到着までの応急手当の重要性を認識し、日常生活及びアウトドア活動において自主救護能力の向上を図ることを目的とする。				
学習目標（到達目標）	応急手当のやり方や流れを理解し、実践できるようになる。				
テキスト・教材・参考図書・その他資料	講習用テキスト配布				

回数	授業項目、内容	学習方法・準備学習・備考
1	■講師紹介挨拶　重要性・必要性(DVD) ■成人に対する心肺蘇生法(１人法実技) ■AED説明(DVD) ■CPR+AED(２人１組にて実施) ■効果測定(筆記試験) ■解説 ■効果測定(実技試験) ■各応急手当実技(止血・骨折/小児CPR/乳児CPR) ■各応急手当実技(外傷手当/搬送法・保温・熱中症/体位管理・異物除去) ■まとめ(質疑応答・事務連絡等)	DVD視聴、口頭・実演による講習後、人工呼吸法・心肺蘇生法・AEDの使用法・止血法等を実践。 筆記試験と実技試験を行うことにより習熟度を確認する。

評価方法・成績評価基準	履修上の注意
出席率と授業態度により評価を行う。 出席率80％未満の場合、原則として成績評価は行わない。 成績評価基準は、優(80点以上)・良(70点以上)・可(60点以上)・不可(59点以下)とする。	修了証を発行するため最後に確認テストが行われます。

実務経験教員の経歴	外部講師：頸城消防署員

科目名	山岳基礎知識	授業形態	対面授業・遠隔授業併用	授業の方法	講義
担当教員	吉田美栄	実務授業の有無	×		
対象学科	野外教育・ｱｳﾄﾄﾞｱｽﾎﾟｰﾂ/キャンプビジネス/自然ガイド・環境保全/自然環境保全/山岳プロ/ｱｳﾄﾄﾞｱﾌﾟﾛｲﾝｽﾄﾗｸﾀｰ	対象学年	1	開講時期	前期
必修・選択	必修	単位数		時間数	24時間
授業概要、目的、授業の進め方	用具や読図・ナビゲーション技術、気象判断などについて学び、自立した野外活動が行なえるようになるための基礎を身につけることを目的とします。また、妙高周辺の山について知り、自身の活動の幅を広げていきます。				
学習目標（到達目標）	野外での活動に関わる基本的な知識を身につける。				
テキスト・教材・参考図書・その他資料	パワーポイント資料使用、その他配布資料。				

回数	授業項目、内容	学習方法・準備学習・備考
1	ナビゲーション技術：地形図と読図の基本（地図記号、磁北線） 計画を立てる：行き先の選定と地図を活用したルート設定	パワーポイント資料を使用した学習および実習
2	登山用具の知識：個人装備、レイヤリング等 各自必要装備の洗い出し（必要装備表作成）	パワーポイント資料と登山用具を使用した学習
3	火器類の使用及びメンテナンス、米炊き実践 テントについて、テントの組み立て方	パワーポイント資料を使用した学習および実習(ガソリンストーブ・テントの使用方法と米炊き体験)
4	基本のロープワーク	パワーポイント資料を使用した学習および実習（ロープワーク）
5	山での行動計画及び、計画書の作成、概念図 ローインパクトとルールとマナー	パワーポイント資料を使用した学習
6	山の天気（天気についての基本的な座学）	パワーポイント資料を使用した学習
7	登山の傷病、危急時露営（ビバーク）と救助要請 危険な動植物（被害の避け方と応急処置）	パワーポイント資料を使用した学習および実習（ツエルト設営）
8	テスト	授業内容全般から幅広く出題

評価方法・成績評価基準	履修上の注意
出席率と授業態度及び学期末テスト・実技テストにより評価を行う。 出席率80％未満の場合、原則として成績評価は行わない。 成績評価基準は、優(80点以上)・良(70点以上)・可(60点以上)・不可(59点以下)とする。	登山だけでなく野外活動全般において、ベースになる知識・技術なので、確実に身につけ、屋外での授業や実習に不足なく取り組めるようにしてください。

実務経験教員の経歴	登山ガイド歴５年・専門学校での講師歴４年

科目名	気象Ⅰ	授業形態	対面授業・遠隔授業併用	授業の方法	講義
担当教員	笠原久司	実務授業の有無	○		
対象学科	山岳プロ	対象学年	2	開講時期	前期
必修・選択	必修	単位数		時間数	16時間
授業概要、目的、授業の進め方	まず、地上天気図、高層天気図を読むための基礎知識を学習する。その上で、週末の実習時の空模様を予測することで予報の作成過程を体感し、体感を通して天気予報の幅（安全マージン）を把握することの重要性を理解する。				
学習目標（到達目標）	気象に関する基礎的知識を身につける。				
テキスト・教材・参考図書・その他資料	オリジナルのレジュメを使用 推奨図書：山岳気象大全（猪熊隆之 山と渓谷社） 適時参考図書を紹介				

回数	授業項目、内容	学習方法・準備学習・備考
1	天気予報の予備知識（気圧と風）、天気図（地上天気図）、週末の天気確認	パワーポイント資料を使用した学習
2	天気予報の予備知識（雲の生成）、天気図（高層天気図）、週末の天気確認	パワーポイント資料を使用した学習
3	火器類の使用及びメンテナンス、米炊き実践 テントについて、テントの組み立て方	パワーポイント資料を使用した学習
4	天気予報（前線）、週末の天気確認	パワーポイント資料を使用した学習
5	天気予報（高気圧）、週末の天気確認	パワーポイント資料を使用した学習
6	天気予報（低気圧）、週末の天気確認	パワーポイント資料を使用した学習
7	天気予報（台風・雷・霧）、週末の天気確認	パワーポイント資料を使用した学習
8	学期末テスト	授業内容全般から幅広く出題

評価方法・成績評価基準	履修上の注意
出席率と授業態度及び学期末テストにより評価を行う。 出席率80％未満の場合、原則として成績評価は行わない。 成績評価基準は、優(80点以上)・良(70点以上)・可(60点以上)・不可(59点以下)とする。	ブログ「気象予報士Kasayanのお天気放談」をチェックし授業に臨んでください。

実務経験教員の経歴	気象予報士資格を取得後、ウェザーニューズ社勤務。全国民放各局の天気予報番組の制作を経て、テレビ朝日ウェザーセンターに勤務。「ニュースステーション」等の天気予報番組の統括デスクを務める。気象予報歴10年以上。

科目名	気象Ⅱ	授業形態	対面授業・遠隔授業併用	授業の方法	講義
担当教員	笠原久司		実務授業の有無	○	
対象学科	山岳プロ	対象学年	2	開講時期	後期
必修・選択	必修	単位数		時間数	16時間
授業概要、目的、授業の進め方	気象Ⅰで学習した基礎知識を復習しつつ山岳に特有な気象現象を学習する。その上で、山岳気象を通常の気象技術の延長線上に位置付け、週末の実習時の空模様を予測、検証する中で生きた知識として定着を図る。				
学習目標（到達目標）	山岳に特有な気象現象について理解する。				
テキスト・教材・参考図書・その他資料	オリジナルのレジュメを使用 推奨図書：山岳気象大全（猪熊隆之 山と渓谷社） 適時参考図書を紹介				

回数	授業項目、内容	学習方法・準備学習・備考
1	天気予報の種類と利用法・高層天気図の見方、週末の天気予想・復習	パワーポイント資料を使用した学習
2	山岳気象の特徴、週末の天気予想・復習	パワーポイント資料を使用した学習
3	火器類の使用及びメンテナンス、米炊き実践 テントについて、テントの組み立て方	パワーポイント資料を使用した学習
4	四季の山岳気象　（冬）、週末の天気予想・復習	パワーポイント資料を使用した学習
5	四季の山岳気象　（春・梅雨）、週末の天気予想・復習	パワーポイント資料を使用した学習
6	（実況データ）衛星画像とレーダー画像の見方、週末の天気予想・復習	パワーポイント資料を使用した学習
7	一年間の総括・復習・学習内容を生きた知識にするために	パワーポイント資料を使用した学習
8	学期末テスト	授業内容全般から幅広く出題

評価方法・成績評価基準	履修上の注意
出席率と授業態度及び学期末テストにより評価を行う。 出席率80％未満の場合、原則として成績評価は行わない。 成績評価基準は、優(80点以上)・良(70点以上)・可(60点以上)・不可(59点以下)とする。	ブログ「気象予報士Kasayanのお天気放談」をチェックし授業に臨んでください。

実務経験教員の経歴	気象予報士資格を取得後、ウェザーニューズ社勤務。全国民放各局の天気予報番組の制作を経て、テレビ朝日ウェザーセンターに勤務。「ニュースステーション」等の天気予報番組の統括デスクを務める。気象予報歴10年以上。

科目名	ガイド検定筆記試験対策	授業形態	対面授業・遠隔授業併用	授業の方法	講義
担当教員	遠藤　普	実務授業の有無	×		
対象学科	野外教育・ｱｳﾄﾄﾞｱｽﾎﾟｰﾂ/自然ガイド・環境保全/山岳プロ	対象学年	2	開講時期	後期
必修・選択	必修	単位数		時間数	16時間
授業概要、目的、授業の進め方	卒業年次の6月に受験する、公益社団法人日本山岳ガイド協会の第一次試験（筆記試験）に向けた対策として、教本を元に自然ガイドの基礎的知識及び専門的知識分野について対策授業を行う。				
学習目標（到達目標）	ガイドに必要な基礎的知識・専門的知識・安全管理技術などに関する理解を深め、筆記試験に合格する。				
テキスト・教材・参考図書・その他資料	公益社団法人日本山岳ガイド協会編　『ガイドの基礎的知識教本』『自然・登山ガイドの専門的知識教本』『山のファーストエイド教本』『自然ガイド・登山ガイド職能別ガイド検定試験筆記試験問題集』				

回数	授業項目、内容	学習方法・準備学習・備考
1	【基礎的知識】第1章　基礎的知識	パワーポイント資料とテキストを使用した学習
2	【基礎的知識】第1章　基礎的知識	パワーポイント資料とテキストを使用した学習
3	火器類の使用及びメンテナンス、米炊き実践 テントについて、テントの組み立て方	パワーポイント資料とテキストを使用した学習
4	【専門知識】第1章ルートガイディングに関する知識	パワーポイント資料とテキストを使用した学習
5	【専門知識】第1章ルートガイディングに関する知識	パワーポイント資料とテキストを使用した学習
6	【専門知識】第2章ガイドに必要なロープワーク、第3章ガイドの安全管理技術	パワーポイント資料とテキストを使用した学習
7	【専門知識】第5章コミュニケーションの技術、第6章ガイド業務とは、 第7回までの授業内容の再確認	パワーポイント資料とテキストを使用した学習
8	基礎的知識及び専門知識の範囲内での模擬試験	授業内容全般から幅広く出題

評価方法・成績評価基準	履修上の注意
出席率と授業態度及び小テスト・学期末テストにより評価を行う。 出席率80％未満の場合、原則として成績評価は行わない。 成績評価基準は、優(80点以上)・良(70点以上)・可(60点以上)・不可(59点以下)とする。	本授業は筆記試験本番に向けての知識ベース作りとなるので、授業以外の時間も使い、しっかりと自己学習をすること。

実務経験教員の経歴	

科目名	アルプス登山実習	授業形態	対面授業のみ	授業の方法	実習
担当教員	中野豊和/渋沢暉/吉田美栄		実務授業の有無	○	
対象学科	野外教育・ｱｳﾄﾄﾞｱｽﾎﾟｰﾂ/キャンプビジネス/自然ガイド・環境保全/自然環境保全/山岳プロ	対象学年	1	開講時期	後期
必修・選択	必修	単位数		時間数	40時間
授業概要、目的、授業の進め方	3年生がガイドとして1年生を顧客に見立て3泊4日のツアーを企画運営し、1年生に登山技術の基礎を指導する。また1年生は3年生のガイディングを学ぶとともに、冬山に入る前のアルプスを経験し、今後の冬山の実習に備える。				
学習目標（到達目標）	基礎的な登山技術や無積雪期のテント泊での生活技術を習得する。				
テキスト・教材・参考図書・その他資料	3年生が作成した顧客用配布資料と国土地理院2万5千分1地形図を配布。				

回数	授業項目、内容	学習方法・準備学習・備考
1	学校で打ち合わせ・準備	行程の再確認・1年生の装備チェック・団体装備振り分け・食事メニューの決定・食料買い出し
2	3泊4日の山行（立山を予定）	山行実践・振り返り・講師からのフィードバック 天候により実習地・日程に変更の可能性あり
3		
4		
5		

評価方法・成績評価基準	履修上の注意
出席率と授業態度により評価を行う。 出席率80％未満の場合、原則として成績評価は行わない。 成績評価基準は、優(80点以上)・良(70点以上)・可(60点以上)・不可(59点以下)とする。	日中の最高気温は10度以下、最低気温にあってはマイナスになることも考えられます。また10月初旬で雪が降ることもありますので、防寒具についてはしっかりとしたものを持ってきてください。 （装備） ザック、登山靴、レインウェア、防寒具（フリース、ダウン等）、着替え、ニット帽、グローブ、シュラフ、マット、ヘッドランプ（電池予備含む）、コッヘル、カトラリー、地図、コンパス、常備薬、サングラス、トイレットペーパー、メモ帳、ボールペン、時計等　別紙しおり参照 3年生より事前ガイダンスあり。

実務経験教員の経歴	中野豊和：有限会社 スリーウェイナビゲーション（1997～2006年）、インフィールド代表（個人事業、2006年～現在）　ガイド歴20年以上。 渋沢暉：登山ガイドステージⅡ、スキーガイドステージⅠ、日本雪崩ネットワークレベル1修了、ウイルダネス・ファーストエイド50ｈ修了

科目名	バックカントリー実習	授業形態	対面授業のみ	授業の方法	実習
担当教員	中野豊和/酒井啓子		実務授業の有無	○	
対象学科	山岳プロ	対象学年	2	開講時期	後期
必修・選択	必修	単位数		時間数	32時間

授業概要、目的、授業の進め方	冬期の代表的な野外活動であるスキー・スノーボード・スノーシューを用いたバックカントリーでの活動を題材として、雪崩リスクマネジメントを中心とした、冬期の野外活動に必要なスキルを習得し、野外活動に従事する者としての資質の向上を図る。
学習目標 （到達目標）	① 積雪期におけるルートナビゲーション及びプランニングを実施し、登山ガイドステージⅡの職能範囲内の活動エリアにおいて、自分たちで安全に活動することができる。 ・プランニング・登山計画書の作成・気象判断・行動判断・ナビゲーション ②積雪期のバックカントリーエリアで安全に活動するための基礎的なスキルを習得する。 ・雪崩地形の認識、積雪の観察と積雪安定性評価の基礎 ・グループマネジメント・セルフレスキュー等について学ぶ ③バックカントリーツアーを体験する ・妙高周辺のフィールドにおける学生主導のバックカントリーツアーを実施する
テキスト・教材・参考図書・その他資料	東京新聞　増強改訂雪崩リスク軽減の手引き NPO法人日本雪崩ネットワークウェブサイト　http://nadare.jp/

回数	授業項目、内容	学習方法・準備学習・備考
1	積雪安定性評価（フィールド）	雪崩のリスクマネジメントを行いながら、バックカントリーを滑走する。
2	（AM）ビーコン捜索テスト、またはセルフレスキューシナリオトレーニング （PM）翌日からのツアープランニング	登山実技で教わったビーコン捜索の手順を復習しておくこと。
3	バックカントリーツアー	雪崩のリスクマネジメントを行いながら、バックカントリーを滑走する。
4	バックカントリーツアー	雪崩のリスクマネジメントを行いながら、バックカントリーを滑走する。

評価方法・成績評価基準	履修上の注意
出席率と授業態度により評価を行う。 出席率80％未満の場合、原則として成績評価は行わない。 成績評価基準は、優(80点以上)・良(70点以上)・可(60点以上)・不可(59点以下)とする。	装備 □　スキー、スノーボード □　登行用の装備（ツアー用ビンディング・シール・スノーシュー・かんじき等） □　上記以外でバックカントリーツアー・雪上でのキャンプに必要な個人装備 （ザック・ウェア・手袋（インナー・アウター）・ゴーグル・サングラス・ビーコン・プローブ・ショベル等） ※ スキーでの参加者はできるだけシール登行ができるよう装備を整えてください。スノーボードの登行はスノーシューを想定しています。装備について不安な点は担当教員まで相談してください。

実務経験教員の経歴	中野豊和：登山ガイドステージⅡ、スキーガイドステージⅡ、日本雪崩ネットワーク雪崩業務従事者レベル2、日本テレマークスキー協会　公認指導員、有限会社 スリーウェイナビゲーション（1997～2006年）、インフィールド代表、ガイド歴20年以上 酒井啓子：日本山岳ガイド協会認定登山ガイドⅡ、日本山岳ガイド協会認定スキーガイドⅠ、長野県公認 信州登山案内人、長野県公認 戸隠登山ガイド組合ガイド、戸隠神社公認戸隠山三十三窟ガイド、日本赤十字救命救急員、NPO法人日本雪崩ネットワーク講師、雪崩業務従事者レベル1(JAN)、登山&BCガイド ことリウム代表

科目名	バックカントリー実習	授業形態	対面授業のみ	授業の方法	実習
担当教員	外部講師	実務授業の有無	○		
対象学科	野外教育・ｱｳﾄﾄﾞｱｽﾎﾟｰﾂ/自然ガイド・環境保全	対象学年	2	開講時期	後期
必修・選択	必修	単位数		時間数	32時間
授業概要、目的、授業の進め方	冬期の代表的な野外活動であるスキー・スノーボード・スノーシューを用いたバックカントリーでの活動を題材として、雪崩リスクマネジメントを中心とした、冬期の野外活動に必要なスキルを習得し、野外活動に従事する者としての資質の向上を図る。				
学習目標（到達目標）	①積雪期におけるルートナビゲーション及びプランニングを実施し、自然ガイドステージⅡの職能範囲内の活動エリアにおいて、自分たちで安全に活動することができる。 ・プランニング　登山計画書の作成　　気象判断　行動判断　ナビゲーション ②　積雪期のバックカントリー（登山）で安全に活動するための基礎的なスキルを習得する ・雪崩地形の認識、積雪の観察と積雪安定性評価の基礎、 ・グループマネジメント、セルフレスキュー等について学ぶ。 ③バックカントリーツアーの実際を体験する ・妙高周辺のフィールドにおける学生主導のバックカントリーツアーを実施する。				
テキスト・教材・参考図書・その他資料	東京新聞　増強改訂雪崩リスク軽減の手引き NPO法人日本雪崩ネットワークウェブサイト　http://nadare.jp/				

回数	授業項目、内容	学習方法・準備学習・備考
1	雪崩地形での行動判断 積雪安定性の評価　等	テキストをもとに雪崩に関するリスクとその軽減についての座学
2	バックカントリー滑走のための基礎知識 セルフレスキュー（ビーコン捜索）	テキストをもとに雪崩に関するリスクとその軽減についての座学
3	ツアーのプランニング 装備確認及び準備	実施場所の選択、リスクアセスメント、計画書の作成 必要装備の準備
4	バックカントリーツアー	雪崩のリスクマネジメントを行いながら、スキー、スノーボード、スノーシューを用いてバックカントリーでの活動を行う。

評価方法・成績評価基準	履修上の注意
出席率と授業態度により評価を行う。 出席率80％未満の場合、原則として成績評価は行わない。 成績評価基準は、優(80点以上)・良(70点以上)・可(60点以上)・不可(59点以下)とする。	装備 □　スキー、スノーボード □　登行用の装備（ツアー用ビンディング・シール・スノーシュー・かんじき等） □　上記以外でバックカントリーツアー・雪上でのキャンプに必要な個人装備 （ザック・ウェア・手袋（インナー・アウター）・ゴーグル・サングラス・ビーコン・プローブ・ショベル等） ※ スキーでの参加者はできるだけシール登行ができるよう装備を整えてください。スノーボードの登行はスノーシューを想定しています。装備について不安な点は担当教員まで相談してください。

実務経験教員の経歴	各授業項目をその分野に秀でたガイドが担当。登山ガイド・山岳ガイド・スキーガイドなど実務経歴概ね５年以上。安全管理を行いながら、積雪期の低山を案内できるようになることを目標として指導する。

科目名	アウトドアビジネス実習	授業形態	対面授業のみ	授業の方法	実習
担当教員	外部講師/服部正秋		実務授業の有無	○	
対象学科	山岳プロ	対象学年	2	開講時期	後期
必修・選択	必修	単位数		時間数	32時間
授業概要、目的、授業の進め方	アウトドアビジネスの実際について学び、自ら事業企画書を作成することを通して、「アウトドア業界で働く」「アウトドアを仕事にする」ことについての理解を深め、意欲を高める。				
学習目標（到達目標）	昨今の現代社会におけるアウトドア業界のニーズについて理解する。				
テキスト・教材・参考図書・その他資料	各企業資料・各企業ホームページ・外部講師資料				

回数	授業項目、内容	学習方法・準備学習・備考
1	アウトドアを仕事にする	業界に関する講話・グループワーク
2	アウトドアを仕事にする	業界に関する講話・グループワーク
3	火器類の使用及びメンテナンス、米炊き実践 テントについて、テントの組み立て方	グループワーク・事業企画書作成
4	＊事業企画書の作成 ＊事業企画プレゼンテーション	グループワーク・事業企画書作成

評価方法・成績評価基準	履修上の注意
出席率と授業態度及びレポートにより評価を行う。 出席率80％未満の場合、原則として成績評価は行わない。 成績評価基準は、優(80点以上)・良(70点以上)・可(60点以上)・不可(59点以下)とする。	【事前課題・事後レポート】 ①現時点での自分の進路や将来的な職業に関する展望を明確にする。 ②ケーススタディで学ぶ各社について、Webサイトを中心に以下の観点で情報収集する。 ・各社の事業は何を目的として行われているのか。 ・各社の商品、サービスはどのようなものであり、顧客に対してどのような価値を提供するか。 ・他の企業にはない各社の特徴や強みは何か。 ③実習後には上記①～②、および本実習での学習内容をもとにしたレポート課題を課します。

実務経験教員の経歴	

科目名	登山実技Ⅰ	授業形態	対面授業のみ	授業の方法	実技
担当教員	外部講師/吉田美栄	実務授業の有無	○		
対象学科	山岳プロ	対象学年	1	開講時期	通年
必修・選択	必修	単位数		時間数	128時間
授業概要、目的、授業の進め方	無積雪期、積雪期の山岳地域で、安全に登山を行うための技術を習得するとともに、岩場の登攀やバックカントリーなどを含む幅広い山岳活動ができるようになる。3年間の目標である登山ガイドの資格取得のために、野外活動の基礎であるナビゲーションスキル・ロープワークを習得することを目的とする。				
学習目標（到達目標）	山での活動を不安なく自立して行うことができるようになり、さらにクライミング技術や自然観察の知識を身につける。				
テキスト・教材・参考図書・その他資料	国土地理院2万5千分1地形図・登山地図				

回数	授業項目、内容	学習方法・準備学習・備考
1	クライミング基礎（他学科合同） クライミング概論・ギアの説明・ロープの結び・ビレイ操作・トップロープクライミング・ボルダリングなど	学校ウォールでのクライミング 講師：丸木太・吉田美栄・小野彰太・津山
2	クライミング基礎（他学科合同・2班に分かれて実施） ロープの結び・ビレイ操作・懸垂下降など	学校ウォールでのクライミング 講師：吉田美栄・クライミング学科3年生
3	火器類の使用及びメンテナンス、米炊き実践 テントについて、テントの組み立て方	外岩（物見岩）でのクライミング 講師：丸木太・吉田美栄・クライミング学科3年生
4	登山入門 3年生企画の登山ツアー	無積雪期日帰り登山の実践 講師：松井茂・吉田美栄
5	地図と計画（座学） 地図を用いた登山計画の仕方	地図上での地形の理解、概念図の書き方とその必要性について 講師：中野豊和・吉田美栄
6	ナビゲーション基礎（笹ヶ峰山） 読図能力の向上	1/25,000の地形図と実際の地形の理解 講師：中野豊和・松井茂・吉田美栄・津山
7	山岳オリエンテーション 日本および海外でも活躍されているガイドからの講話を聴き、仕事についての職業感を学ぶ。	講話とロープワーク 講師：佐々木大輔・加藤直之・増本亮・渋沢暉
8	沢登り入門 初級の沢登り体験	黒沢で沢登りの基本、注意点について学ぶ 講師：松井茂、吉田美栄
9	歩荷トレーニング(20kg) 20kgの荷物を背負っての登山	現状の体力を把握し今後の目標を設定 講師：渋沢暉・松井茂・服部正秋・吉田美栄
10	登山ガイドツアー プロガイドによる登山ツアー	ガイディングのイメージ・自然解説の重要性の理解 講師：髙木律子・吉田美栄
11	ノルディックウォーキング ノルディックウォーキングの歴史と動向	信越トレイル 講師：服部正秋
12	ナビゲーション実践（南葉山） ナビゲーションスキルの向上	登山道にとらわれず地形図から地形を想像して現在地を把握する。 講師：中野豊和・松井茂・吉田美栄
13	ロングトレイル入門 ロングトレイルの歴史と動向	信越トレイル 講師：服部正秋
14	世界のガイディング 海外でのガイディング事例・高所登山・雪崩など	講話、グループワーク 講師：近藤謙司
15	藪漕ぎ入門（大平山周辺） ナビゲーションスキルの向上	道の無い山において安全かつ効率的なルートを選択し、現在地把握・プランニング・ルートの維持を行う。 講師：中野豊和、吉田美栄
16	冬期登山入門 3年生企画の登山ツアー	積雪期日帰り登山の実践 講師：松井茂、吉田美栄
17	寒冷下での装備とナビゲーション（他学科合同）	講話、積雪期ナビゲーション 講師：中野豊和、松井茂・吉田美栄
18	BC入門 積雪期のナビゲーションスキルの向上	積雪期ナビゲーション、バックカントリースキー、またはスノーシュー体験 講師：中野豊和・吉田美栄

評価方法・成績評価基準	履修上の注意
出席率と授業態度により評価を行う。 出席率80％未満の場合、原則として成績評価は行わない。 成績評価基準は、優(80点以上)・良(70点以上)・可(60点以上)・不可(59点以下)とする。	一つ一つの経験が途切れることなくつながることで、登山者として成長していきます。毎回予習～実践～復習を行うようにしてください。

実務経験教員の経歴	各授業項目をその分野に秀でたガイドやクライマーが担当。登山ガイド・山岳ガイド・国際山岳ガイド・スキーガイド・クライマーなど実務経歴概ね10年以上。 野外活動に必要な基礎を固めることを目標として指導する。

科目名	登山実技Ⅱ	授業形態	対面授業のみ	授業の方法	実技
担当教員	外部講師/吉田美栄		実務授業の有無	○	
対象学科	山岳プロ	対象学年	2	開講時期	通年
必修・選択	必修	単位数		時間数	256時間
授業概要、目的、授業の進め方	無積雪期、積雪期の山岳地域で、安全に登山を行うための技術を習得するとともに、岩場の登攀やバックカントリースキーなども含めた幅広い山岳活動ができるようなる。また、3年次の認定ガイド資格取得にむけて、ナビゲーションスキルやガイディングテクニックを学んでいく。				
学習目標（到達目標）	様々なスタイルの山に自分で登れるようになる。				
テキスト・教材・参考図書・その他資料	日本登山体系、アルペンガイドなどのエリア別ルートガイド、登山地図、国土地理院2万5千分1地形図、webなど				

回数	授業項目、内容	学習方法・準備学習・備考
1	雪上訓練 ナビゲーション・歩行・滑落停止・アンカー構築・生活技術など	ピッケル・アイゼンを使用した歩行及び1泊2日の幕営 講師：黒田誠・増本亮・上田幸雄・渋沢暉
2	積雪期登山 積雪期における歩行訓練・幕営技術	雪上における初歩的な技術を習得 講師：中野豊和・吉田美栄
3	火器類の使用及びメンテナンス、米炊き実践 テントについて、テントの組み立て方	カムやナッツの仕組みやセッティングの仕方を習得 講師：井上大助・安達真貴
4	セルフレスキュートレーニング 登山道上でのレスキューとリーダーシップ	講習とシナリオトレーニング 講師：佐々木大輔・加藤直之・増本亮
5	高山植物基礎	高山植物への知識・理解・興味を養う 講師：髙木律子、吉田美栄
6	沢登り 生活技術・渡渉	沢での生活技術や、渡渉・歩き方・ロープワークなどの基礎的な技術を習得。 講師：中野豊和・渋沢暉
7	沢登り 生活技術・ナビゲーション	遡行図・地形図を照らし合わせ現在地を把握 講師：川崎拓兵・渋沢暉
8	歩荷トレーニング(25kg) 25kgの荷物を背負っての登山	現状の体力を把握し今後の目標を設定 講師：渋沢暉・松井茂・服部正秋・吉田美栄
9	秋山インプリ 秋山での自分の得意分野を活かしたインタープリテーション	概要作成→事前準備→本番→フィードバック→ブラッシュアップでスキルを向上。 講師：髙木律子・吉田美栄
10	ビバーク訓練 日帰り装備でのビバーク体験	日帰り装備でのビバークを体験し、危急時に必要な装備、スキルについて考える 講師：中野豊和・竹石幸司
11	地質で見る上高地 山岳地帯の地史と地質	山の地史、山を構成する地質について学び、山岳環境への理解を深める。講師：髙橋康・吉田美栄
12	ナビゲーション実践 ナビゲーション能力の向上	視界が悪い中でのビバークを含めたナビゲーション 講師：中野豊和・渋沢暉
13	世界のガイディング 海外でのガイディング事例・高所登山・雪崩など	講話、グループワーク 講師：近藤謙司
14	登山ガイドのコンプライアンス 職業倫理・法的責任とマナー	講話・グループワーク 講師：長岡健一
15	スキー技術	バックカントリースキーを視野に入れたゲレンデでのスキー技術練習 講師：中野豊和
16	雪の安全管理 座学・ビーコン	雪崩に対するリスク管理・ビーコン捜索・積雪観察など 講師：林智加子
17	雪の安全管理 ピット・地形	気象観測・積雪観察により雪崩リスクを予測し、今後の行動指針を考えることが出来るようになる。 講師：林智加子

評価方法・成績評価基準	履修上の注意
出席率と授業態度及び登山報告書や課題の提出の他、安全･確実に山行をこなし、必要な技術を積極的に吸収、かつ実践できるかどうかを総合的に評価する。またグループ行動を円滑に行うことができ、役割を理解して果たせることも重視する。 出席率80％未満の場合、原則として成績評価は行わない。 成績評価基準は、優(80点以上)・良(70点以上)・可(60点以上)・不可(59点以下)とする。	一つ一つの経験が途切れることなくつながることで、登山者として成長していきます。毎回予習～実践～復習を行うようにしてください。 毎回、報告書の提出を義務とします。

実務経験教員の経歴	各授業項目をその分野に秀でたガイドやクライマーが担当。登山ガイド・山岳ガイド・国際山岳ガイド・スキーガイド・クライマーなど実務経歴概ね10年以上。 様々なスタイルで山に登れるようになることを目標として指導する。

科目名	登山実技Ⅲ	授業形態	対面授業のみ	授業の方法	実技
担当教員	外部講師/吉田美栄	実務授業の有無	○		
対象学科	山岳プロ	対象学年	3	開講時期	通年
必修・選択	必修	単位数		時間数	256時間
授業概要、目的、授業の進め方	無積雪期、積雪期の山岳地域で、安全に登山を行うための技術を習得するとともに、岩場の登攀やバックカントリースキーなども含めた幅広い山岳活動ができるようなる。また登山ガイド資格に見合った、ナビゲーションスキルやガイディングテクニックを身に付ける。				
学習目標（到達目標）	安全管理を行いながら、山に人を案内できるようになる。				
テキスト・教材・参考図書・その他資料	日本登山体系、アルペンガイドなどのエリア別ルートガイド、登山地図、国土地理院2万5千分1地形図、webなど				

回数	授業項目、内容	学習方法・準備学習・備考
1	雪上訓練 ナビゲーション・歩行・滑落停止・アンカー構築・生活技術など	ピッケル・アイゼンを使用した歩行及び1泊2日の幕営 講師：黒田誠・増本亮・松井茂・渋沢暉
2	バリエーション入門	バリエーションルートでの装備、行動、ルート選択を学び、今後の授業につなぐ山行とする 講師：加藤直之・増本亮
3	火器類の使用及びメンテナンス、米炊き実践 テントについて、テントの組み立て方	試験の傾向と対策/ロープワーク・ツエルト・搬送など 講師：菅野由起子・松井茂
4	セルフレスキュー基礎 登山道上でのレスキューとリーダーシップ	講習とシナリオトレーニング 講師：佐々木大輔・加藤直之・増本亮
5	クライミングレスキュートレーニング	学校ウォールでのクライミングレスキュー 講師：加藤直之・清原翔大
6	登山ガイドのロープワーク 基本と実践的確保	実践的なロープワークの習得 講師：長岡健一・松井茂
7	登山道整備講習	実際に鎖の付け替えなどを経験し、登山道整備とその課題について学ぶ 講師：井上大助・安達正貴
8	歩荷トレーニング(30kg) 30kgの荷物を背負っての登山	現状の体力を把握し今後の目標を設定 講師：渋沢暉・松井茂・服部正秋・吉田美栄
9	バリエーション実践（3日間）	標高の高い山でのバリエーション登山の実践 講師：加藤直之・増本亮
10	ナビゲーション実践 ナビゲーション能力の向上	視界が悪い中でのビバークを含めたナビゲーション 講師：中野豊和・渋沢暉
11	秋山インタープリテーション 秋山でのガイディング実践	事前に配布する資料に目を通す。事前に配布資料を作成する。 講師：上野真一郎・川合陽介
12	地質で見る上高地 山岳地帯の地史と地質	山の地史、山を構成する地質について学び、山岳環境への理解を深める。講師：高橋・吉田美栄
13	世界のガイディング 海外でのガイディング事例・高所登山・雪崩など	講話・グループワーク 講師：近藤謙司
14	アイスクライミング体験（3日間）	八ヶ岳周辺でのアイスクライミングを体験し、今後の活動の幅を広げる 講師：加藤直之・渋沢暉
15	バックカントリールートガイディング実践1 学生によるプランニング	気象観測・積雪観察により雪崩リスクを予測し、今後の行動指針を考えることが出来るようになる。 講師：中野豊和・酒井啓子
16	バックカントリールートガイディング実践2 学生によるプランニング	気象観測・積雪観察により雪崩リスクを予測し、今後の行動指針を考えることが出来るようになる。 講師：中野豊和・酒井啓子

評価方法・成績評価基準	履修上の注意
出席率と授業態度及び登山報告書や課題の提出の他、安全･確実に山行をこなし、必要な技術を積極的に吸収、かつ実践できるかどうかを総合的に評価する。またグループ行動を円滑に行うことができ、役割を理解して果たせることも重視する。 出席率80％未満の場合、原則として成績評価は行わない。 成績評価基準は、優(80点以上)・良(70点以上)・可(60点以上)・不可(59点以下)とする。	一つ一つの経験が途切れることなくつながることで、登山者として成長していきます。毎回予習～実践～復習を行うようにしてください。 毎回、報告書の提出を義務とします。

実務経験教員の経歴	各授業項目をその分野に秀でたガイドやクライマーが担当。登山ガイド・山岳ガイド・国際山岳ガイド・スキーガイド・クライマーなど実務経歴概ね10年以上。 安全管理を行いながら、山に人を案内できるようになることを目標として指導する。

科目名	山行プランニング	授業形態	対面授業のみ	授業の方法	演習
担当教員	吉田美栄	実務授業の有無	×		
対象学科	山岳プロ	対象学年	2	開講時期	通年
必修・選択	必修	単位数		時間数	32時間
授業概要、目的、授業の進め方	目標地点に立ち、安全圏に無事還るという登山の目的を達成するために、あらかじめ手段や行動内容を決めたものが登山計画。事前に綿密な計画を立てることの重要性を理解するとともに、下山後に登山を評価し次の登山につなげ、一つ一つの経験が途切れることなくつながることで、登山者として成長していくことを目的とする。				
学習目標（到達目標）	山行の目的や意義を理解し、それに見合った計画を立案できるようになる。				
テキスト・教材・参考図書・その他資料	日本登山体系、アルペンガイドなどのエリア別ルートガイド、登山地図、国土地理院2万5千分1地形図、webなど				

回数	授業項目、内容	学習方法・準備学習・備考
1	「4/14-15　雪上訓練」プランニング	グループワーク（3年生と合同） 「雪上訓練」計画書提出
2	「5/16-20　残雪期登山実習」プランニング	グループワーク 「残雪期登山実習」プランニング用紙提出
3	「5/16-20　残雪期登山実習」プランニング	グループワーク 「残雪期登山実習」計画書提出
4	「5/12-14　残雪期登山（火打）」プランニング	グループワーク 「残雪期登山（火打）」計画書提出
5	リムーバブルプロテクションメンテナンス	グループワーク
6	「6/16-17　高山植物」プランニング	グループワーク 「高山植物」計画書提出
7	「6/23-24　沢登りⅠ(生活技術・渡渉)」プランニング	グループワーク 「沢登りⅠ」計画書提出
8	「7/7-8　沢登りⅡ(生活技術・ナビゲーション)」プランニング	グループワーク 「沢登りⅡ」計画書提出
9	「7/18-21　高山植物同定実習」プランニング 「9/5-8　服部文祥と行く沢登り実習」プランニング	グループワーク 「高山植物同定実習」計画書提出
10	「10/13-14　秋山インタープリテーション」プランニング	個人ワーク
11	「10/20-21　ビバーク訓練」プランニング	グループワーク 「ビバーク訓練」計画書提出
12	「10/29-30　地質で見る上高地」プランニング	グループワーク（3年生と合同） 「地質」計画書提出
13	「11/3-4　ナビゲーション実践」プランニング	グループワーク 「ナビゲーション実践」計画書提出
14	「1/30-2/3　積雪期登山実習」プランニング	グループワーク 「積雪期登山実習」計画案提出①
15	「1/30-2/3　積雪期登山実習」プランニング	グループワーク 「積雪期登山実習」計画案提出②
16	「1/30-2/3　積雪期登山実習」プランニング	グループワーク 「積雪期登山実習」計画案提出③

評価方法・成績評価基準	履修上の注意
出席率と授業態度及び提出物により評価を行う。 出席率80％未満の場合、原則として成績評価は行わない。 成績評価基準は、優(80点以上)・良(70点以上)・可(60点以上)・不可(59点以下)とする。	役割分担をして効率的に作業を進めてください。

実務経験教員の経歴	登山ガイド歴５年・専門学校での講師歴４年

科目名	山行プランニング	授業形態	対面授業のみ	授業の方法	演習
担当教員	吉田美栄		実務授業の有無	×	
対象学科	山岳プロ	対象学年	3	開講時期	通年
必修・選択	必修	単位数		時間数	32時間
授業概要、目的、授業の進め方	目標地点に立ち、安全圏に無事還るという登山の目的を達成するために、あらかじめ手段や行動内容を決めたものが登山計画。事前に綿密な計画を立てることの重要性を理解するとともに、下山後に登山を評価し次の登山につなげ、一つ一つの経験が途切れることなくつながることで、登山者として成長していくことを目的とする。				
学習目標（到達目標）	山行の目的や意義を理解し、それに見合った計画を立案できるようになる。				
テキスト・教材・参考図書・その他資料	日本登山体系、アルペンガイドなどのエリア別ルートガイド、登山地図、国土地理院2万5千分1地形図、webなど				

回数	授業項目、内容	学習方法・準備学習・備考
1	「4/28-29　バリエーション入門」プランニング	グループワーク 「バリエーション入門」計画案提出①
2	「4/28-29　バリエーション入門」プランニング 「5/16-20　山岳技術強化実習」プランニング	グループワーク、「山岳技術強化実習」プランニング提出① 「バリエーション入門」計画案提出②
3	「4/28-29　バリエーション入門」プランニング 「5/16-20　山岳技術強化実習」プランニング	グループワーク 「バリエーション入門」計画案提出（最終）
4	「バリエーション入門」ふりかえり 「5/16-20　山岳技術強化実習」プランニング	個人ワーク、グループワーク 「山岳技術強化実習」計画案提出②
5	「山岳技術強化実習」ふりかえり 「6/9-10　セルフレスキュートレーニング」準備	グループワーク
6	「9/7-9　バリエーション実践」プランニング	グループワーク、個人ワーク
7	「9/7-9　バリエーション実践」プランニング	グループワーク、個人ワーク
8	「9/7-9　バリエーション実践」プランニング	グループワーク・個人ワーク
9	「9/7-10　バリエーション実践」プランニング	グループワーク・個人ワーク
10	「10/13-14　ナビゲーション実践」プランニング	グループワーク 「ナビゲーション実践」計画書提出
11	「10/20-21　秋山インタープリテーション」プランニング	グループワーク 「秋山インタープリテーション」計画書提出
12	「10/29-30　地質で見る上高地」プランニング	グループワーク（2年生と合同） 「地質」計画書提出
13	「2/6-10　冬季山岳技術強化実習」プランニング	グループワーク、個人ワーク
14	「2/6-10　冬季山岳技術強化実習」プランニング	グループワーク、個人ワーク 「冬季山岳技術強化実習」計画案提出①
15	「2/6-10　冬季山岳技術強化実習」プランニング	グループワーク、個人ワーク 「冬季山岳技術強化実習」計画案提出②
16	後期の山行評価、まとめ	グループワーク 「冬季山岳技術強化実習」計画案提出③

休

評価方法・成績評価基準	履修上の注意
出席率と授業態度及び提出物により評価を行う。 出席率80％未満の場合、原則として成績評価は行わない。 成績評価基準は、優(80点以上)・良(70点以上)・可(60点以上)・不可(59点以下)とする。	役割分担をして効率的に作業を進めてください。

実務経験教員の経歴	登山ガイド歴５年・専門学校での講師歴４年

科目名	山岳プログラム企画・運営	授業形態	対面授業のみ	授業の方法	演習
担当教員	吉田美栄		実務授業の有無	○	
対象学科	山岳プロ	対象学年	3	開講時期	通年
必修・選択	必修	単位数		時間数	48時間
授業概要、目的、授業の進め方	1年生対象の夏期縦走、アルプス登山実習や旅行会社に提案するプラン、メーカーやメディアと連携したイベントなど、各プログラムを企画・準備し、運営していきます。				
学習目標（到達目標）	商業ベースでも通用するクオリティを実現するため、綿密な計画を立てるとともに、企画力のみならず、高いマネジメント力を身につけていくことを目標とする。				
テキスト・教材・参考図書・その他資料	雑誌、旅行会社のパンフレットなどに日ごろから目を通し、人気企画などをマーケティングの視点から各自研究しておくこと。				

回数	授業項目、内容	学習方法・準備学習・備考
1	年間プログラムとスケジューリング・各担当決定、 トラベルマスターズツアーの趣旨説明、ツアー立案について	講座、グループワーク
2	登山入門企画・ガイダンス準備	グループワーク 登山入門(対象：MP1 、5/11米山？)
3	火器類の使用及びメンテナンス、米炊き実践 テントについて、テントの組み立て方	グループワーク
4	登山入門アンケート集計と反省、 夏季縦走企画、アルプス登山実習企画、トラマスツアー冬企画	グループワーク 夏季縦走実習Ⅰ(対象：MP1) アルプス登山実習(対象：1年生全学科)
5	夏季縦走企画、アルプス登山実習企画、トラマスツアー冬企画	グループワーク
6	夏季縦走企画、アルプス登山実習企画、トラマスツアー冬企画	グループワーク
7	夏季縦走企画、アルプス登山実習企画、トラマスツアー冬企画	グループワーク
8	夏季縦走企画、アルプス登山実習企画、トラマスツアー冬企画	グループワーク
9	夏季縦走企画、ガイダンス準備、アンケート作成 アルプス登山実習企画、トラマスツアー冬企画	グループワーク 「トラマス冬企画」プラン案提出
10	夏期縦走・アルプス登山実習アンケート集計と反省、 トラマス冬企画提出	グループワーク 「トラマス冬企画」プラン提出（確定）
11	トラマス冬企画準備、冬期登山入門企画	グループワーク
12	トラマス冬企画準備、冬期登山入門企画	グループワーク
13	トラマス冬企画準備、冬期登山入門企画・ガイダンス準備	グループワーク
14	冬期登山入門アンケート集計と反省、 トラマス冬企画準備	グループワーク
15	トラマス冬企画準備（下見）	グループワーク
16	トラマス冬企画準備・アンケート準備	グループワーク

評価方法・成績評価基準	履修上の注意
出席率と授業態度及びプログラムの企画内容で評価を行う。 出席率80％未満の場合、原則として成績評価は行わない。 成績評価基準は、優(80点以上)・良(70点以上)・可(60点以上)・不可(59点以下)とする。	授業外でも準備の時間をつくり、各自が責任をもって企画に取り組み、すべてのプログラムを充実させた内容にしたうえで実施してください。綿密な企画がクライアントの満足度や安全につながることを常に意識して取り組んでください。実施後のアンケートを実施し、改善していくこと。

実務経験教員の経歴	登山ガイド歴５年・専門学校での講師歴４年

科目名	クライミングトレーニング	授業形態	対面授業のみ	授業の方法	実技
担当教員	竹石幸司/清原翔太	実務授業の有無	×		
対象学科	山岳プロ	対象学年	1	開講時期	後期
必修・選択	必修	単位数		時間数	32時間
授業概要、目的、授業の進め方	クライミングウォールでテクニック向上を目的としたトレーニングを行い、ロープクライミング・ボルダリングの技術を向上させる。				
学習目標（到達目標）	手順を覚えるだけでなく、それぞれのメリット・デメリットを理解した上で、状況に応じてシステムを使い分けられるようになる。				
テキスト・教材・参考図書・その他資料	参考図書：東京新聞出版局　増補改訂新版イラストクライミング				

回数	授業項目、内容	学習方法・準備学習・備考
1	クライミング基礎 登山実技Ⅰで教わった技術の習熟度の確認	学校ウォールでの講習と実践
2	支点構築 支点の知識とセット方法・支点にかかる墜落荷重	学校ウォールでの講習と実践
3	火器類の使用及びメンテナンス、米炊き実践 テントについて、テントの組み立て方	学校ウォールでの講習と実践
4	マルチピッチクライミング システムの理解	学校ウォールでの講習と実践
5	1/3引き上げ・結び変え	学校ウォールでの講習と実践
6	登り返し・自己脱出	学校ウォールでの講習と実践
7	実技テスト	学校ウォールでの実技テスト
8	実技テスト	学校ウォールでの実技テスト

評価方法・成績評価基準	履修上の注意
出席率と授業態度及び実技テストにより評価を行う。 出席率80％未満の場合、原則として成績評価は行わない。 成績評価基準は、優(80点以上)・良(70点以上)・可(60点以上)・不可(59点以下)とする。	クライミングにつきものの危険を回避するため、それぞれのシステムをしっかり理解すること。

実務経験教員の経歴	竹石幸司：専門学校での講師歴６年 清原翔大：登山ガイド歴５年。専門学校での講師歴３年。

科目名	登山ガイド実践	授業形態	対面授業のみ	授業の方法	実習
担当教員	外部講師/吉田美栄	実務授業の有無	○		
対象学科	山岳プロ	対象学年	3	開講時期	通年
必修・選択	必修	単位数		時間数	64時間
授業概要、目的、授業の進め方	リーダーシップを発揮し、安全面に配慮しながらガイディングを行う。				
学習目標（到達目標）	ガイドとしての実務経験を積み、学んだ知識・技術を実践できるようになる。				
テキスト・教材・参考図書・その他資料	日本山岳ガイド協会教本　「ガイドの基礎的知識」「専門的知識」他				

回数	授業項目、内容	学習方法・準備学習・備考
1	「登山入門」指導演習	対象：MP1 講師：松井茂、吉田美栄
2	「夏季縦走登山実習Ⅰ」指導演習	対象：MP1 講師：林智加子、渋沢暉
3	火器類の使用及びメンテナンス、米炊き実践 テントについて、テントの組み立て方	対象：1年生 講師：中野豊和、渋沢暉、吉田美栄
4	「冬期登山入門」指導演習	対象：MP1 講師：松井茂、吉田美栄
5	トラベルマスターズツアー実施	対象：一般 引率：吉田美栄

評価方法・成績評価基準	履修上の注意
出席率と授業態度及びガイディングで評価を行う。 出席率80％未満の場合、原則として成績評価は行わない。 成績評価基準は、優(80点以上)・良(70点以上)・可(60点以上)・不可(59点以下)とする。	一つ一つの実習を振り返り、必ず改善点を見出し、数をこなすごとに着実にガイディング能力が向上するよう努力してください。

実務経験教員の経歴	登山ガイド歴５年・専門学校での講師歴４年

科目名	山岳研究	授業形態	対面授業のみ	授業の方法	演習
担当教員	吉田美栄	実務授業の有無	×		
対象学科	山岳プロ	対象学年	3	開講時期	通年
必修・選択	必修	単位数		時間数	32時間
授業概要、目的、授業の進め方	自分が興味を持って調べ、まとめ、人に伝える（発表する）ことは、自分をさらけだすことでもあります。社会に出ると、アイデア立案、企画作成、業務運営等の様々な場面で、意見を求められたり、考えをまとめ伝えるなど、「自分」を相手にさらけだす（伝える、表現する）機会が数多くやってきます。【目的】卒業研究では、自ら気づき、調べ、まとめたものを最終的に卒業論文や発表会でのプレゼンとして完成させる。				
学習目標（到達目標）	卒業研究を進める過程を通し、自分が暮らす現実社会や仕事として携わる業界に関する問題・課題を見つけ出し、現状を調査し、解決策・改善策・将来ビジョンを提示する基本的なスキルを習得する。				
テキスト・教材・参考図書・その他資料					

回数	授業項目、内容	学習方法・準備学習・備考
1	オリエンテーション（卒業研究の概要）、テーマ決定、研究計画の作成	■ノートPC持参
2	テーマ発表、研究計画の作成・発表、調査・制作活動開始	■ノートPC持参
3	火器類の使用及びメンテナンス、米炊き実践 テントについて、テントの組み立て方	各自の研究テーマ、方法により、個別に調査・研究活動
4	調査・制作活動（教員が個別に対応）	各自の研究テーマ、方法により、個別に調査・研究活動
5	調査・制作活動（教員が個別に対応）	各自の研究テーマ、方法により、個別に調査・研究活動
6	調査・制作活動（教員が個別に対応）	各自の研究テーマ、方法により、個別に調査・研究活動
7	調査・制作活動（教員が個別に対応）	各自の研究テーマ、方法により、個別に調査・研究活動
8	中間発表（進捗状況確認）	■ノートPC持参
9	調査・制作活動（教員が個別に対応）	各自の研究テーマ、方法により、個別に調査・研究活動
10	調査・制作活動（教員が個別に対応）	各自の研究テーマ、方法により、個別に調査・研究活動
11	調査・制作活動（教員が個別に対応）	各自の研究テーマ、方法により、個別に調査・研究活動
12	調査・制作活動（教員が個別に対応）	各自の研究テーマ、方法により、個別に調査・研究活動
13	中間発表（パワーポイント）	各自の研究テーマ、方法により、個別に調査・研究活動
14	調査・制作活動（教員が個別に対応）	各自の研究テーマ、方法により、個別に調査・研究活動
15	発表練習（発表時間：発表12分＋質疑応答3分/人）	■ノートPC持参
16	発表練習（発表時間：発表12分＋質疑応答3分/人）	■ノートPC持参

評価方法・成績評価基準	履修上の注意
出席率と研究への取組み、卒業研究論文、発表会の内容、提出物をもとに評価を行う。 提出物：卒業論文、卒業研究発表要旨、卒業発表（パワーポイント） 出席率80％未満の場合、原則として成績評価は行わない。 成績評価基準は、優(80点以上)・良(70点以上)・可(60点以上)・不可(59点以下)とする。	研究は、「自分の力でやり遂げる」ことがもっとも大切です。もちろん、わからないことはどんどん聞いてください。アドバイスを得ながら作業を進めることも、期限内に卒論（仕事）を完成させる「自分の力」の重要な要素だからです。時間的、労力的、精神的にきつい時があるかと思いますが、皆に見せたい論文、聞かせたい発表を作り上げてください。

実務経験教員の経歴	登山ガイド歴５年・専門学校での講師歴４年

科目名	クライミング指導演習	授業形態	対面授業のみ	授業の方法	演習
担当教員	佐々木大輔/加藤直之/渋沢暉		実務授業の有無	○	
対象学科	山岳プロ	対象学年	3	開講時期	通年
必修・選択	必修	単位数		時間数	32時間
授業概要、目的、授業の進め方	クライミング技術において、複数ピッチを安全に登るための支点構築・システム構築・懸垂下降・カムやナッツなどのリムーバブルプロテクションの使い方などを習得し、マルチピッチの一連の流れを理解してもらいながらインストラクションを行う。				
学習目標（到達目標）	安全かつ正確にマルチピッチでゲストをガイディングできるようにインストラクション技術を身に着けるとともに、自己の知識や技術の確認・定着をする。				
テキスト・教材・参考図書・その他資料	参考図書：東京新聞出版局　増補改訂新版イラストクライミング、日本の岩場（白山書房）、日本登山体系（白水社） 国土地理院2万5千分1地形図を配布				

回数	授業項目、内容	学習方法・準備学習・備考
1	1年生マルチピッチクライミング基礎への同行 ■懸垂下降 ■支点構築（流動分散・固定分散・角度等） ■マルチピッチシステムの確認 ■全体の流れを確認（リード～システム構築～フォローが登る～懸垂ロープセット～下降）	実習地：物見岩
2	2年生マルチピッチクライミング基礎への同行 ■カム・ナッツの使用方法の確認 ■カム、ナッツでの支点構築の方法	実習地：尼厳山
3	2泊3日のクライミング実践	計画、準備
4		岩場での経験を活かしバリエーションルートの山岳登攀を実践する
5		

評価方法・成績評価基準	履修上の注意
出席率と授業態度により評価を行う。 出席率80％未満の場合、原則として成績評価は行わない。 成績評価基準は、優(80点以上)・良(70点以上)・可(60点以上)・不可(59点以下)とする。	・クライミング用具一式（ハーネス・環付カラビナ・カラビナ・スリング・プルージックコード・ビレイ器・クイックドロー・アルパインドロー・クライミングシューズ・ ヘルメット・ビレイグローブ） ・カミングデバイス・ナッツ・ナッツキー・ギアラック・ダブルロープ ・蜂スプレー・FAキット(38㎜テーピングは各自用意すること) ・その他日帰りでマルチピッチに行ける装備(ヘッドランプ・ナイフ・笛なども) ・当日の天候、メンバーの力量・習熟度により内容や場所に変更の可能性があります。

実務経験教員の経歴	佐々木大輔：GUIDE BANKEI代表　山岳ガイド歴20年以上 加藤直之：山岳ガイド歴10年以上 渋沢暉 ： クライミング歴９年以上

科目名	クライミング春合宿Ⅰ	授業形態	対面授業のみ	授業の方法	実習
担当教員	丸木太／外部講師	実務授業の有無	○		
対象学科	山岳プロ	対象学年	1	開講時期	前期
必修・選択	必修	単位数		時間数	32時間
授業概要、目的、授業の進め方	日本を代表するクライミングの岩場で、さまざまな種類の課題にチャレンジし、クライミング能力を高める。内容としてはショートルート、ボルダリング、マルチピッチクライミングを実施するが、1年生は自然の岩場でのクライミングに慣れること、基本的な安全管理ができるようになることを目的とする。クライミングコースは外岩でのクライミング能力を高めることはもちろん、ロープワーク・支点構築等、外岩での安全管理を確実にし、ガイドとしてのトレーニング経験を積む。				
学習目標（到達目標）	マルチピッチクライミングの理解・実施（安全管理含）				
テキスト・教材・参考図書・その他資料	【団体装備】クライミングロープ　シングルロープ、スリング、カラビナの予備、幕営用具（テント一式、テントマットなど）、炊事用具（ストーブ、燃料、コッフェル大）、ボルダーマット（クラッシュパッド） 【個人装備】クライミング用具一式（ハーネス、環付カラビナ、ヌンチャク、カラビナ、スリング、ビレイ器、クライミングシューズ等）、テント泊個人装備（シュラフ、個人用マットなど）、着替え（防寒具含）、雨具、食料（朝２食分、夕２食分、予備食）、行動食（昼食3食分）、食事（実習期間の朝食、夕食は各自で準備）				

回数	授業項目、内容	学習方法・準備学習・備考
	【1日目】小川山 ショートルートクライミング中心に実践及び懸垂復習	実習地：小川山（廻り目平キャンプ場） ※小川山は、ベースキャンプで標高1,600m。寒いことが予想されます。
	【2日目】ショートルートクライミング中心に実践及び懸垂復習 マルチピッチクライミング基礎	
	【3日目】ショートルート、ボルダリング、マルチピッチ	

評価方法・成績評価基準	履修上の注意
出席率と授業態度により評価を行う。 出席率80％未満の場合、原則として成績評価は行わない。 成績評価基準は、優(80点以上)・良(70点以上)・可(60点以上)・不可(59点以下)とする。	・当日の天候、メンバーの力量・習熟度により内容や場所に変更の可能性があります。

実務経験教員の経歴	講師の各クライミングジム、他方でのクライミング指導歴等実務指導歴10年以上

科目名	マルチピッチクライミング基礎	授業形態	対面授業のみ	授業の方法	実習
担当教員	佐々木大輔/加藤直之/渋沢暉	実務授業の有無	○		
対象学科	山岳プロ	対象学年	1	開講時期	後期
必修・選択	必修	単位数		時間数	32時間
授業概要、目的、授業の進め方	クライミング技術において、複数ピッチを安全に登るための支点構築・システム構築・懸垂下降・カムやナッツなどのリムーバブルプロテクションの使い方などを習得し、マルチピッチの一連の流れを理解する。				
学習目標（到達目標）	2・3年次のプライベート山行において、各自で安全かつ正確にマルチピッチでリードクライミングを行えるようになるための基礎を習得する。				
テキスト・教材・参考図書・その他資料	参考図書：東京新聞出版局　増補改訂新版イラストクライミング				

回数	授業項目、内容	学習方法・準備学習・備考
1 2	物見岩 ■懸垂下降の確認 ■支点構築（流動分散・固定分散・角度等） ■マルチピッチシステムの確認 ■全体の流れを確認（リード～システム構築～フォローが登る～懸	講習・実践・フィードバック 参考図書「イラストクライミング」を熟読して実習に望むこと 天候により実習地が変更になる場合あり
3 4	尼飾山 ■学んだことの実践 カム・ナッツの使用方法の確認 カム、ナッツでの支点構築の方法	講習・実践・フィードバック 参考図書「イラストクライミング」を熟読して実習に望むこと 天候により実習地が変更になる場合あり

評価方法・成績評価基準	履修上の注意
出席率と授業態度により評価を行う。 出席率80％未満の場合、原則として成績評価は行わない。 成績評価基準は、優(80点以上)・良(70点以上)・可(60点以上)・不可(59点以下)とする。	・クライミング用具一式（ハーネス・環付カラビナ・カラビナ・スリング・プルージックコード・ビレイ器・クイックドロー・アルパインドロー・クライミングシューズ・ ヘルメット・ビレイグローブ） ・カミングデバイス・ナッツ・ナッツキー・ギアラック・ダブルロープ ・蜂スプレー・FAキット(38㎜テーピングは各自用意すること) ・その他日帰りでマルチピッチに行ける装備(ヘッドランプ・ナイフ・笛なども) ・イラストクライミングの配布資料を熟読し、練習してから本実習に望むこと。 ・山岳オリエンテーションで学んだロープの束ね方やさばき方、基本的な結びについて各自復習しておくこと。 ・駐車場から岩場までのアプローチやルートについても各自事前に研究しておくこと。 当日の天候、メンバーの力量・習熟度により内容や場所に変更の可能性があります。

実務経験教員の経歴	佐々木大輔：GUIDE BANKEI代表　山岳ガイド歴20年以上 加藤直之：山岳ガイド歴10年以上 渋沢暉 ： クライミング歴９年以上

科目名	登山ガイド検定対策Ⅰ	授業形態	対面授業のみ	授業の方法	実習
担当教員	外部講師／吉田美栄	実務授業の有無	○		
対象学科	山岳プロ	対象学年	3	開講時期	前期
必修・選択	必修	単位数		時間数	40時間
授業概要、目的、授業の進め方	本実習は日本山岳ガイド協会が認定する登山ガイド資格取得のための必修実習です。合否を問われる検定ではありませんが、これまでi-nacの授業で学んできたガイドスキルが登山ガイド資格認定レベルに達しているかどうかガイド協会の検定員の方が確認する意味も含まれています。確認される技術についてはテキスト『ガイドの基礎的知識教本』『自然・登山ガイドの専門的知識教本』『山のファーストエイド教本』の内容に準じますので、事前に熟読しておいてください。 講師は日本山岳ガイド協会試験委員会の検定員であるプロのガイドの方が務め、プロの目から厳しく指導していただきます。本番の試験を受ける緊張感を持ち取り組んでください。				
学習目標（到達目標）	（公社）日本山岳ガイド協会認定の登山ガイドに必要なガイド技術の理解および習得				
テキスト・教材・参考図書・その他資料	公益社団法人日本山岳ガイド協会編　『ガイドの基礎的知識教本』『自然・登山ガイドの専門的知識教本』『山のファーストエイド教本』『自然ガイド・登山ガイド職能別ガイド検定試験筆記試験問題集』				

回数	授業項目、内容	学習方法・準備学習・備考
1	ガイド総論(ガイドの心構え・ガイドの仕事・ガイド業界の現状・ガイドの技術ほか)	座学 講師：日本山岳ガイド協会試験委員会検定員
2	学科試験対策	座学 講師：日本山岳ガイド協会試験委員会検定員
3	火器類の使用及びメンテナンス、米炊き実践 テントについて、テントの組み立て方	実習 講師：日本山岳ガイド協会試験委員会検定員 学内ロビーや学校周辺のフィールドで、ロープワーク等の技術講習を実施。
4	フィールドワーク（安全管理技術）	実習 講師：日本山岳ガイド協会試験委員会検定員
5	フィールドワーク（ガイディング技術）	実習 講師：日本山岳ガイド協会試験委員会検定員 事前に「顧客用配布資料」を作成し提出すること。

評価方法・成績評価基準	履修上の注意
出席率と授業態度及び顧客用配布資料の内容により評価を行う。 出席率80％未満の場合、原則として成績評価は行わない。 成績評価基準は、優(80点以上)・良(70点以上)・可(60点以上)・不可(59点以下)とする。	上記の予定ですが天候等でルート等変更がある可能があるので、上記コース外でも対応できるように調べておくこと。 装備：ルートガイディングに必要な装備すべて+ヘルメット（後半の3日間必要） （レスキュー等のロープワークも含まれますので、ガイド基本装備をすべて用意し、野外で活動できる服装で参加すること。上に着る服は襟付きのものとする。） ※注意　以下は個人で準備すること：30mロープ、カラビナ類、スリング類、ツエルト（2～3人用以上）、ヘッドランプ×2（顧客用予備含）、FAキット、火器食器

実務経験教員の経歴	外部講師：（公社）日本山岳ガイド協会試験委員会検定員

科目名	登山ガイド検定対策Ⅱ	授業形態	対面授業のみ	授業の方法	実習
担当教員	外部講師／吉田美栄	実務授業の有無	○		
対象学科	山岳プロ	対象学年	3	開講時期	後期
必修・選択	必修	単位数		時間数	40時間
授業概要、目的、授業の進め方	本実習は日本山岳ガイド協会が認定する登山ガイド資格取得のための必修実習です。一般受験者が受ける検定、義務講習の内容を総合的に学ぶ実習なので、これまで学んだことを復習し、またテキスト『ガイドの基礎的知識　教本』『自然・登山ガイドの専門的知識　教本』『山のファーストエイド　教本』を熟読しておいてください。講師は日本山岳ガイド協会試験委員会の検定員であるプロのガイドの方が務め、プロの目から厳しく指導していただきます。本番の試験を受ける緊張感を持ち取り組んでください。 実習Ⅱではより実践的な内容が含まれます。安全管理に関わる技術をフィールドで試されたり、ルートガイディングも一人ずつ実践を任されますので、事前準備、資料作成をしっかりと行ってください。				
学習目標（到達目標）	（公社）日本山岳ガイド協会認定の登山ガイドに必要なガイド技術の理解および習得				
テキスト・教材・参考図書・その他資料	公益社団法人日本山岳ガイド協会編　『ガイドの基礎的知識教本』『自然・登山ガイドの専門的知識教本』『山のファーストエイド教本』				

回数	授業項目、内容	学習方法・準備学習・備考
1	ガイド概論(ガイドの心構え・ガイドの仕事・ガイド業界の現状・ガイドの技術ほか)	座学 講師：日本山岳ガイド協会試験委員会検定員
2	ファーストエイド・危急時対応	実習 講師：日本山岳ガイド協会試験委員会検定員
3	火器類の使用及びメンテナンス、米炊き実践 テントについて、テントの組み立て方	実習 講師：日本山岳ガイド協会試験委員会検定員
4	フィールドワーク（自然解説技術）	実習 講師：日本山岳ガイド協会試験委員会検定員 東俣沢観音沢～旧御射山～ヒュッテジャヴェル（山小屋泊） 事前に「顧客用配布資料」を作成し提出すること。
5	フィールドワーク（自然解説技術）	実習 講師：日本山岳ガイド協会試験委員会検定員 ヒュッテジャヴェル～車山湿原～八島ヶ原湿原～観音沢登山口 事前に「顧客用配布資料」を作成し提出すること。

評価方法・成績評価基準	履修上の注意
出席率と授業態度及び顧客用配布資料の内容により評価を行う。 出席率80％未満の場合、原則として成績評価は行わない。 成績評価基準は、優(80点以上)・良(70点以上)・可(60点以上)・不可(59点以下)とする。	上記の予定ですが天候等でルート等変更がある可能があるので、上記コース外でも対応できるように調べておくこと。 装備：ルートガイディングに必要な装備すべて+ヘルメット（後半の3日間必要） （レスキュー等のロープワークも含まれますので、ガイド基本装備をすべて用意し、野外で活動できる服装で参加すること。上に着る服は襟付きのものとする。） ※注意　以下は個人で準備すること：30mロープ、カラビナ類、スリング類、ツエルト（2～3人用以上）、ヘッドランプ×2（顧客用予備含）、FAキット、火器食器

実務経験教員の経歴	外部講師：（公社）日本山岳ガイド協会試験委員会検定員

科目名	残雪期登山実習	授業形態	対面授業のみ	授業の方法	実習
担当教員	渋沢暉／清原翔大		実務授業の有無	○	
対象学科	山岳プロ	対象学年	2	開講時期	前期
必修・選択	必修	単位数		時間数	40時間
授業概要、目的、授業の進め方	残雪期の山の登山技術全般を学ぶとともに、事前のプランニングの重要性について理解する。春に特有の山の状況を知り、低温、氷化した斜面の登下降、地形判断、天候判断、生活技術全般など総合的にトレーニングを行う。				
学習目標（到達目標）	各自で目的を設定し、その目的を達成するために適した実習地を選定することができ、滞りなく山行を実践することができるようになる。				
テキスト・教材・参考図書・その他資料	プランニングに関する資料を配布				

回数	授業項目、内容	学習方法・準備学習・備考
1	（午前）プランニングに関する講義、各自考えてきたプランの発表・フィードバック・修正・絞り込み （午前）登山計画書作成・団体装備準備・買出し	9:30開始　教室は後日連絡 （午前）情報共有。個々人による計画書作成。実習地の決定 （午後）役割分担し山行準備
2	2泊3日または3泊4日の山行	山行実践・振り返り・講師からのフィードバック 積雪状態や天候により変更の可能性あり
3		
4		
5		

評価方法・成績評価基準	履修上の注意
出席率と授業態度及び提出物により評価を行う。 出席率80％未満の場合、原則として成績評価は行わない。 成績評価基準は、優(80点以上)・良(70点以上)・可(60点以上)・不可(59点以下)とする。	■団体装備 □幕営用具一式：テント、テントマット、雪用ペグ、張り綱等 □補助ロープ　8㎜×30m 2本 □炊事用具：ガソリンストーブ、燃料､木板、鍋等 □食料：朝2食分、夕2食分 □ファーストエイドキット □その他残雪期登山に必要な用具 ■個人装備 □ピッケル、アイゼン（12本爪、アイゼンが装着できる登山靴など） □プローブ、ショベル、ビーコン、スノーソー、トレッキングポール □地図、コンパス □ラッセル用スノーシューorわかん □宿泊個人装備（シュラフ、個人用マット、シュラフカバーなど） □衣類一式（着替え、防寒着、替えグローブ含む） □行動食（3日分＋予備）、予備食1日分（行動食とは別） □サングラス（雪盲防止）、ゴーグル □ヘルメット・ハーネス・ガチャ類 □テルモス（携帯用魔法瓶） □その他残雪期登山に必要な用具 ■事前課題 2泊3日の山行を行う実習地（山域とルート）を各自考えておいてください。 ※☒ーコン、ショベル、プローブ、スノーシュー・わかんは学校備品を使用可能。

実務経験教員の経歴	渋沢暉：登山ガイドステージⅡ、スキーガイドステージⅠ、日本雪崩ネットワークレベル1修了、ウイルダネス・ファーストエイド50ｈ修了 清原翔太：登山ガイド歴５年。専門学校での講師歴３年。

科目名	高山植物同定実習	授業形態	対面授業のみ	授業の方法	実習
担当教員	髙木律子/吉田美栄	実務授業の有無	○		
対象学科	山岳プロ	対象学年	2	開講時期	前期
必修・選択	必修	単位数		時間数	32時間
授業概要、目的、授業の進め方	本実習は、山の魅力を伝えるプロフェッショナルとして欠かせない高山植物に関する知見を高めるためのものである。高山特有の花や木は、訪れる登山者にとって夏山の大きな魅力のひとつになっている。その魅力を伝えられるスキルは、山行を充実させるだけでなく、多人数のツアーにおいてはペースを調整することもでき、また環境保全への高い意識を喚起させられる重要な要素にもなっている。 日本山岳ガイド協会においても、環境への意識の高いガイド養成に大きな力点をおいており、ガイド検定試験でも植物の知識は大きな柱となっている。 今実習を通して、山岳の植生に造詣を深め、環境保全への意識を高めていくことを望む。				
学習目標（到達目標）	高山植物を正確に同定し、知識として身につけることができるようになる。				
テキスト・教材・参考図書・その他資料	参考資料 ①『山溪カラー名鑑　日本の高山植物』（山と溪谷社） ②『ひと目で見分ける250種 高山植物ポケット図鑑』（新潮文庫） ③『高山植物ハンディ図鑑』（小学館101ビジュアル新書） ※①は高価なので見たい人は図書室の本棚へ。②③は小型でハンディサイズなので、日ごろの山行に持って行きたい人向き。 ※その他、入山口の栂池で白馬エリアのポケット図鑑を購入することができます。				

回数	授業項目、内容	学習方法・準備学習・備考
1 2 3	山行 1日目　学校→栂池→白馬大池 2日目　白馬大池→白馬岳→村営頂上小屋幕営地 3日目　幕営地→大雪渓→猿倉→学校	山行実践・振り返り・講師からのフィードバック 天候により実習地・日程に変更の可能性あり
4	学校にて講義、同定作業・プレゼンテーション	学校で講義、個人ワーク ・観察できた植物の中から気に入ったものを一つ選び、特徴などをまとめて紹介資料を作成し発表・提出。 植物の名前を調べ（同定）て写真データを提出。

評価方法・成績評価基準	履修上の注意
出席率と授業態度及び成果発表により評価を行う。 出席率80％未満の場合、原則として成績評価は行わない。 成績評価基準は、優(80点以上)・良(70点以上)・可(60点以上)・不可(59点以下)とする。	フィールドではメモを取る、カメラ、スマートフォン等で写真を撮影するなどで発表に必要な素材を現地で集めてください。 最終日にプレゼン資料にして発表・提出していただきます。

実務経験教員の経歴	髙木律子：登山ガイド歴20年以上。高山植物の知識だけでなく、自然解説手法や環境保全などについて指導する。

科目名	沢登り実習	授業形態	対面授業のみ	授業の方法	実習
担当教員	服部文祥/竹石幸司	実務授業の有無	○		
対象学科	山岳プロ	対象学年	2	開講時期	前期
必修・選択	必修	単位数		時間数	32時間

授業概要、目的、授業の進め方	日本独自の登山スタイルである沢登りを実践しながら、渡渉、へつり、沢登り独特の泳法、確保技術を学び、安全に山行を行える総合的な判断力を身につける。また、安全な場所を選択したうえでの露営、生活技術の向上も図り、野外活動に従事する者としての資質の向上を図る。
学習目標（到達目標）	① 水系の地形を理解したルートナビゲーション及びプランニングを実施し、登山ガイドステージⅡの職能範囲内の活動エリアにおいて、自分たちで安全に活動することができる。・プランニング・登山計画書の作成・気象判断・行動判断・ナビゲーション②安全に活動するための沢登りの基礎的なスキルを習得する。・グループマネジメント・セルフレスキュー等について学ぶ③なるべく最新用具に頼らないシンプルな山中生活を体験する・サバイバル登山家の知恵と経験に導かれた最小限の山行スタイルを経験し、吸収する
テキスト・教材・参考図書・その他資料	国土地理院２万５０００分の１地形図 参考図書：『サバイバル登山家』服部文祥著（みすず書房）

回数	授業項目、内容	学習方法・準備学習・備考
1	沢登りの基本と精神	学校にて講義
2	技術解説、生活術、プランニング	教室、および学校周辺フィールドでの実践
3	火器類の使用及びメンテナンス、米炊き実践 テントについて、テントの組み立て方	安全に配慮しながら、パーティで山行を実践する
4	沢登り実践	安全に配慮しながら、パーティで山行を実践する

評価方法・成績評価基準	履修上の注意
出席率と授業態度により評価を行う。出席率80％未満の場合、原則として成績評価は行わない。成績評価基準は、優(80点以上)・良(70点以上)・可(60点以上)・不可(59点以下)とする。	【沢登り特有の装備】沢靴（ソールはフエルトかラバー）、ネオプレンソックス、スパッツ、濡れても冷えないウエア、防水パッキング、着火剤、直接火にかけられるクッカー等 【通常のテント泊山行との違い】タープやツエルトの下で夜を過ごすので、吸血虫対策、防寒対策はしっかりと。エアマットは推奨できない。バリエーションルートになるので、各自事前の体調管理はしっかりと行うこと。

実務経験教員の経歴	服部文祥：サバイバル登山家。フリークライミング、沢登り、山スキー、アルパインクライミングからヒマラヤの高所登山（K2）まで、オールラウンドに登山を追求。山岳雑誌『岳人』編集部部員。

科目名	自然（英語）ガイド実習	授業形態	対面授業のみ	授業の方法	実習
担当教員	林 智加子		実務授業の有無	○	
対象学科	山岳プロ	対象学年	2	開講時期	後期
必修・選択	必修	単位数		時間数	32時間
授業概要、目的、授業の進め方	昨今、日本を訪れる外国人旅行者は増加し続け、英語を主力とするガイディング能力、また異言語のゲストを対象としたコミュニケーションスキルの向上の必要性が高まっています。本実習では様々な(主にガイディングにおいて)の場面を舞台として、外国語コミュニケーションスキルを磨き・高め・準備が出来る人材の育成を目指す。				
学習目標（到達目標）	外国人旅行者または日本語を主言語としない地域の人と異言語におけるコミュニケーションスキルを元にしたガイディングへの準備そして実践できるようになる。				
テキスト・教材・参考図書・その他資料	自然ガイド環境保全学科において使用している、生物・植物・自然環境についてのテキスト、携帯電話（およびWiFi＝言語検索などのツールとして）、地域オリエンテーリングマップなど観光案内資料、ノート、小さなメモ帳と筆記用具等　その他必要に応じて講座中に配布するものがある。				

回数	授業項目、内容	学習方法・準備学習・備考
1	【イントロ】受講生・講師の自己紹介、学習領域の説明 【座学】 ・「コミュニケーション」とは何かを理解する ・「ガイド」の責任・目的・課題・準備を明確にとらえる	自己紹介、ゲーム、討議
2 3	【スキル】 ・ガイディングに活かせる「チート・シート」の作成 ・ガイディングに活かせる参考資料の選択・作成 ・昼食時・休憩時・活動中のコミュニケーションについて考え、その手法・手段を確立する ・「異文化・異言語の相手に学ぶ」ことができるようになることで、スムーズな人間関係の構築を目指し、それをガイディングに活かす	個人ワーク、グループワーク、討議
4	【実技】 ・言語力に頼らないコミュニケーションスキルの実践 ・シナリオ：「作成した自作の資料を活用しよう」 ・シナリオ：「コンビニに一緒に行ってみよう」 ・シナリオ：総合演習 【まとめ・評価】 今後の様々なガイディングを行う上で、コミュニケーションへの課題と解決のための手段を見つけるカギ（考え方の手段）を掌握できる	ゲーム、シナリオ、ロールプレイ、ワークシート

評価方法・成績評価基準	履修上の注意
それぞれの学習目的やタスクへの取り組み、そのコンプレヘンション(理解度)・チェックに置いて習熟度の評価を行う。合格・不合格の結果を出すとともに、個人における今後の取り組みの課題を提出するものとする。	著しい欠席、怠慢、無気力がみられる場合、学科教員も含めた話し合い後にも改善が見られない場合は成績評価は行わない。

実務経験教員の経歴	林智加子：ニュージーランドでスキーパトローラーとして７年勤務、帰国後富士山ガイドとして長く従事し、登山ガイドやスキーガイドとしても活動。１２年前よりインバウンドも対象とした英語でのガイディングを行っている。カナダにて雪崩業務従事者レベル１インストラクターとしての研修を経て、現在日本で講師を務める。

科目名	山岳技術強化実習	授業形態	対面授業のみ	授業の方法	実習
担当教員	黒田誠/増本亮	実務授業の有無	○		
対象学科	山岳プロ	対象学年	3	開講時期	前期
必修・選択	選択必修	単位数		時間数	32時間
授業概要、目的、授業の進め方	登山実技Ⅲのバリエーション実践で学んだ知識や習得した技術を本実習につなげるとともに、登山技術全般について学ぶ。自ら本実習における明確な目標、目的を決め、滞りなく山行を行えるよう計画し実践することを目的とする。				
学習目標（到達目標）	自ら目標を設定しそれを実践することにより、自立した登山者になることを目標とする。				
テキスト・教材・参考図書・その他資料	日本登山体系、アルペンガイドなどのエリア別ルートガイド、登山地図、国土地理院2万5千分1地形図。 インターネットからの情報収集は原則禁止。				

回数	授業項目、内容	学習方法・準備学習・備考
1	（午前）各自考えたプランの発表・フィードバック・絞り込み （午後）登山計画書作成・団体装備準備・食料買出し	考えたプランに対して講師陣がフィードバック。プランを修正し最終決定。
2	山行	2泊3日、1泊2日+日帰り、日帰り×3などの山行を実施 山行実践・振り返り・講師からのフィードバック
3		
4		

評価方法・成績評価基準	履修上の注意
出席率と授業態度及び事前の提出物(山行プランニング用紙)により評価を行う。 出席率80％未満の場合、原則として成績評価は行わない。 成績評価基準は、優(80点以上)・良(70点以上)・可(60点以上)・不可(59点以下)とする。	・事前のプランニング準備の時間をつくり、明確な目標・目的を定め、それを達成するためにふさわしいフィールドを選定してください。 また、雨天時を考慮して、山域や標高帯の異なるサブプランも考えてください。 ・各自考えたプランは講師陣に事前に確認していただき、内容に問題があればやり直しになる場合があります。

実務経験教員の経歴	黒田誠：黒田ガイド事務所代表　ガイド歴10年以上 増本亮：アルパインクライマー　国内外での登攀歴15年以上 目標の設定やそれに見合った山域の選定などの準備段階から、山行実践・振り返りまで、山行をトータルで指導する。

科目名	夏期縦走登山実習Ⅰ	授業形態	対面授業のみ	授業の方法	実習
担当教員	林智加子/渋沢暉	実務授業の有無	○		
対象学科	山岳プロ	対象学年	1	開講時期	前期
必修・選択	必修	単位数		時間数	40時間
授業概要、目的、授業の進め方	3年生がガイドとして1年生を顧客に見立て3泊4日のツアーを企画運営し、1年生に登山技術の基礎を指導する。また1年生は3年生のガイディングを学ぶとともに、冬山に入る前のアルプスを経験し、今後の冬山の実習に備える。				
学習目標（到達目標）	基礎的な登山技術や無積雪期のテント泊での生活技術を習得する。				
テキスト・教材・参考図書・その他資料	3年生が作成した顧客用配布資料と国土地理院2万5千分1地形図を配布。				

回数	授業項目、内容	学習方法・準備学習・備考
1	学校で打ち合わせ・準備	行程の再確認・1年生の装備チェック・団体装備振り分け・食事メニューの決定・食料買い出し
2 3 4 5	3泊4日の山行 【2021年度実績】 1日目　学校～折立～太郎平小屋～薬師峠キャンプ場 2日目　薬師峠キャンプ場 ～薬師岳～間山～スゴ乗越小屋キャンプ場 3日目　スゴ乗越小屋キャンプ場～越中沢岳～五色ヶ原キャンプ場4日目　五色ヶ原キャンプ場～浄土山～室堂～立山～学校	山行実践・振り返り・講師からのフィードバック 天候により実習地・日程に変更の可能性あり

評価方法・成績評価基準	履修上の注意
出席率と授業態度により評価を行う。 出席率80％未満の場合、原則として成績評価は行わない。 成績評価基準は、優(80点以上)・良(70点以上)・可(60点以上)・不可(59点以下)とする。	3年生より事前ガイダンスあり

実務経験教員の経歴	林智加子：ニュージーランドでスキーパトローラーとして７年勤務、帰国後富士山ガイドとして長く従事し、登山ガイドやスキーガイドとしても活動。１２年前よりインバウンドも対象とした英語でのガイディングを行っている。カナダにて雪崩業務従事者レベル１インストラクターとしての研修を経て、現在日本で講師を務める。 渋沢暉：：登山ガイドステージⅡ、スキーガイドステージⅠ、日本雪崩ネットワークレベル1

科目名	夏期縦走登山実習Ⅱ	授業形態	対面授業のみ	授業の方法	実習
担当教員	中野豊和/吉田美栄	実務授業の有無	○		
対象学科	山岳プロ	対象学年	1	開講時期	前期
必修・選択	必修	単位数		時間数	32時間
授業概要、目的、授業の進め方	1年生だけで山行計画を立て、学生個々が役割を持ち、ひとつのチームとして安全な山行を行えるようになる。長期縦走によって山岳の技術を磨く。				
学習目標（到達目標）	テント設営やテント内での生活技術、炊事など、自分たちだけで滞りなく行えるようになる。				
テキスト・教材・参考図書・その他資料	アルペンガイドなどのエリア別ルートガイド、登山地図、国土地理院2万5千分1地形図、webなど				

回数	授業項目、内容	学習方法・準備学習・備考
1	学校で打ち合わせ・準備	必要装備洗い出し・登山計画書の作成・団体装備振り分け・食料買い出し
2 3 4	山行 【2020年度実績】 1日目　学校→赤岳山荘→赤岳鉱泉 2日目　赤岳鉱泉→硫黄岳→赤岳→行者小屋→赤岳鉱泉 3日目　赤岳鉱泉→行者小屋→赤岳山荘→学校	山行実践・振り返り・講師からのフィードバック 天候により実習地・日程に変更の可能性あり

評価方法・成績評価基準	履修上の注意
出席率と授業態度により評価を行う。 出席率80％未満の場合、原則として成績評価は行わない。 成績評価基準は、優(80点以上)・良(70点以上)・可(60点以上)・不可(59点以下)とする。	・各自ルートを把握し、各ポイントの通過予定時刻を考えてくる。 ・各自食事メニューを考えてくる。 ・夏季縦走登山実習Ⅰでの3年生のアドバイス参考に装備を準備してください。

実務経験教員の経歴	中野豊和：有限会社 スリーウェイナビゲーション（1997～2006年）、インフィールド代表（個人事業、2006年～現在）　ガイド歴20年以上。

科目名	積雪期登山実習	授業形態	対面授業のみ	授業の方法	実習
担当教員	上田幸雄/渋沢暉	実務授業の有無	○		
対象学科	山岳プロ	対象学年	2	開講時期	後期
必修・選択	必修	単位数		時間数	40時間
授業概要、目的、授業の進め方	積雪期の山の登山技術全般を学ぶ。冬に特有の山の状況を知り、低温・深雪・氷化した斜面の登下降・雪崩と積雪層・地形判断・天候判断・生活技術全般など、総合的にトレーニングを行う。また、事前計画において、計画の段階で考えられるリスクを洗い出し対処方法を考え、今後の授業及びプライベートでの山行計画をする際の考え方を学び、プランニングの重要性について理解する。				
学習目標（到達目標）	各自で目的を設定し、その目的を達成するために適した実習地を選定することができ、滞りなく山行を実践することができるようになる。				
テキスト・教材・参考図書・その他資料	日本登山体系、アルペンガイドなどのエリア別ルートガイド、登山地図、国土地理院2万5千分1地形図、webなど				

回数	授業項目、内容	学習方法・準備学習・備考
1	【学校でのプランニング及び準備】 (午前) プランニング ・各自のプランを板書し、班別で検討(講師指導) ・登山・装備・食料計画、個人装備チェック (午後) 準備 ・団体装備振り分け ・食料買い出し	2班に別れ事前に個人で計画したプランを持ちより、ルート・天候・班のスキル・装備等を考慮し、班ごとにリーダーを決め話し合い、計画を組み立てる。
2 3 4 5	山行	3泊4日の山行実施。（班によって別な山域可） 山行実践・振り返り・講師からのフィードバック

評価方法・成績評価基準	履修上の注意
出席率と授業態度及び事前の提出物(山行プランニング用紙)により評価を行う。 出席率80％未満の場合、原則として成績評価は行わない。 成績評価基準は、優(80点以上)・良(70点以上)・可(60点以上)・不可(59点以下)とする。	・積雪期登山で使用する装備・服装を準備し持ってくること。 ・事前に山行プランニング及びそのプランにおける考えられるリスク及び対処方法を考えてくること。 ・各自考えたプランは講師陣に事前に確認していただき、内容に問題があればやり直しになる場合があります。

実務経験教員の経歴	上田幸雄：山岳ガイドステージⅡ、ガイド歴5年以上　冬季黒部横断10回以上 渋沢暉：：登山ガイドステージⅡ、スキーガイドステージⅠ、日本雪崩ネットワークレベル1

科目名	冬期山岳技術強化実習	授業形態	対面授業のみ	授業の方法	実習
担当教員	上田幸雄/増本亮/渋沢暉	実務授業の有無	○		
対象学科	山岳プロ	対象学年	3	開講時期	後期
必修・選択	必修	単位数		時間数	40時間
授業概要、目的、授業の進め方	雪山特有の状況を知り、低温、深雪、氷化した斜面の登下降、雪崩と積雪層・地形判断、天候判断、生活技術全般など3年間学んできた総合力を試される集大成となる実習。本格的な冬山を体験し、ガイドとしての視点よりも自身の登山を完結することを目的とする。				
学習目標（到達目標）	プランニングから実際の山行まで自立した登山ができるように、冬期の山岳活動における高いスキルを身につける。				
テキスト・教材・参考図書・その他資料	日本登山体系、アルペンガイドなどのエリア別ルートガイド、登山地図、国土地理院2万5千分1地形図、webなど				

回数	授業項目、内容	学習方法・準備学習・備考
1	【学校でのプランニング及び準備】 (午前) プランニング ・各自のプランを板書し、班別で検討(講師指導) ・登山・装備・食料計画、個人装備チェック (午後) 準備 ・団体装備振り分け ・食料買い出し	個人で計画したプランを持ちより、ルート・天候・班のスキル・装備等を考慮し、リーダーを決め話し合い計画を組み立てる。
2	山行	3泊4日、2泊3日+日帰り、1泊2日×2などの山行実施。 （班によって別な山域可） 山行実践・振り返り・講師からのフィードバック
3		
4		
5		

評価方法・成績評価基準	履修上の注意
出席率と授業態度及び事前の提出物(山行プランニング用紙)により評価を行う。 出席率80％未満の場合、原則として成績評価は行わない。 成績評価基準は、優(80点以上)・良(70点以上)・可(60点以上)・不可(59点以下)とする。	・事前確認のため、使用する装備・服装を準備し持ってくること。 ・事前に山行プランニング及びそのプランにおいて考えられるリスク及び対処方法を考えてくること。 ・各自考えたプランは講師陣に事前に確認していただき、内容に問題があればやり直しになる場合があります。

実務経験教員の経歴	上田幸雄：ガイド歴5年以上　冬季黒部横断10回以上 増本亮：アルパインクライマー　国内外での登攀歴15年以上 渋沢暉：登山ガイドステージⅡ、スキーガイドステージⅠ、日本雪崩ネットワークレベル1

科目名	インターンシップ実習	授業形態	対面授業のみ	授業の方法	実習
担当教員	吉田美栄/受入企業・団体	実務授業の有無	○		
対象学科	山岳プロ	対象学年	2	開講時期	通年
必修・選択	必修	単位数		時間数	120時間
授業概要、目的、授業の進め方	「インターンシップ実習」では、自らの専攻、将来のキャリアに関連する就業体験を行います。目的は次の4点です。①学習意欲の向上と学習目的の明確化、②高い職業意識を持った職業人の養成、③専門分野での実務能力の向上、④アウトドア業界における人的ネットワークの構築				
学習目標（到達目標）	①実際のビジネス現場での体験を通じて、自分の適性を確認できる。 ②アウトドア業界における就業体験を通し、業界理解を深め、進路選択に役立てることができる。 ③社会人としての挨拶、マナーの重要性を理解できる				
テキスト・教材・参考図書・その他資料	■インターンシップ実習の手引き、■学生調書　■志望動機書　■その他配布資料				

回数	授業項目、内容	学習方法・準備学習・備考
1	インターンシップガイダンス、受入先の希望調査	希望調査シートに第3希望まで記入し、担当教員に提出。
2	受入先の決定、学生調書、インターンシップ動機書の作成・提出	学生調書（excel）、動機書（word）をメールで担当教員に提出、教員が校閲後返却。完成後、受入先に提出。
3	火器類の使用及びメンテナンス、米炊き実践 テントについて、テントの組み立て方	学生自身が受入担当者に電話連絡
4	受入先における研修（7月下旬から9月中旬の期間で実働15日以上）	研修期間中、毎日、実習日誌に記入し、受入先担当者に提出。
5	研修後、実習報告書・実習レポートを作成。	実習報告書・実習レポート（word）・実習日誌を担当教員に提出。

評価方法・成績評価基準	履修上の注意
出席率、インターンシップ日誌の内容（業務遂行レベル）、インターンシップ報告書の内容、報告会での発表、受入先担当者による成績評価等、総合的に評価を行います。 2021年9月20日までに15日間以上の研修を実施できていない場合は、原則として成績評価を行わない。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。	■事前に必ず傷害保険およびインターンシップ活動賠償責任保険に加入すること。 ■研修期間：実働15日間以上を確保すること ■研修中、毎日日誌を作成し、受入先担当者に提出、確認印をもらうこと。インターンシップ終了後、全日誌を教員に提出 ■事後報告書・レポートの提出 ■受入先では人に接する態度、言葉遣いなどの基本的なマナーや、服装・身だしなみ等に気を配ること。 ■無断欠席や遅刻は厳禁である。

実務経験教員の経歴	当該学科の進路・就職先としてモデルとなる企業・団体や、アウトドア業界で先進的な取り組みをしている企業・団体と連携し、インターンシップ受入の業界ネットワークを構築している。担当者の経歴はインターンシップ受入先企業・団体による。

科目名	登山ガイド業務インターンシップ実習	授業形態	対面授業のみ	授業の方法	実習
担当教員	吉田美栄/受入企業・団体	実務授業の有無	○		
対象学科	山岳プロ	対象学年	3	開講時期	通年
必修・選択	必修	単位数		時間数	80時間
授業概要、目的、授業の進め方	「インターンシップ実習」では、自らの専攻、将来のキャリアに関連する就業体験を行います。目的は次の5点です。①学習意欲の向上と学習目的の明確化、②高い職業意識を持った職業人の養成、③専門分野での実務能力の向上、④アウトドア業界における人的ネットワークの構築、⑤公益社団法人日本山岳ガイド協会登山ガイドステージⅡを卒業時に認定するにあたり実務経験を積む				
学習目標（到達目標）	登山ガイドの職能に関わるツアー、ガイドにアシスタントとして関わり、ガイドとしての実務経験を積む。学んだ知識、技術を実務で実践できるようになる。				
テキスト・教材・参考図書・その他資料	■ガイドインターンシップ実習の手引き、■学生調書　■志望動機書　■その他配布資料				

回数	授業項目、内容	学習方法・準備学習・備考
1	インターンシップガイダンス、受入先を調整し決定（各自または提携先）	希望調査シートを記入し、担当教員に提出。
2	受入先の決定、学生調書、インターンシップ動機書の作成・提出（必要な企業のみ）	学生調書（excel）、動機書（word）をメールで担当教員に提出、教員が校閲後返却。完成後、受入先に提出。
3	火器類の使用及びメンテナンス、米炊き実践 テントについて、テントの組み立て方	学生自身が受入担当者に電話連絡
4	受入先における研修（通年で実働10日以上）	研修期間中、毎日、実習日誌に記入し、受入先担当者に提出。
5	研修後、実習報告書・実習レポートを作成。	研修後2週間以内に実習報告書（word）・実習日誌を担当教員に提出。長期休暇はまとめて提出

評価方法・成績評価基準	履修上の注意
出席率、インターンシップ日誌の内容（業務遂行レベル）、インターンシップ報告書の内容等で総合的に評価を行います。 2022年2月11日までに10日間以上、通年で研修を実施できていない場合は、原則として成績評価を行わない。（研修日誌を提出した上） 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。	■アルバイトで個人的にサブガイドを行う場合は事前に担当教員に研修先、業務内容を伝えること。 ■事前に必ず傷害保険およびインターンシップ活動賠償責任保険に加入すること。 ■研修期間：実働10日間以上を確保すること ■研修中、毎日日誌を作成し、受入先担当者に提出、確認印をもらうこと。インターンシップ終了後、全日誌を教員に提出 ■事後報告書の提出 ■受入先では人に接する態度、言葉遣いなどの基本的なマナーや、服装・身だしなみ等に気を配ること。 ■無断欠席や遅刻は厳禁である。

実務経験教員の経歴	インターンシップ受入先企業・団体の担当スタッフによる。

科目名	ホームルーム			授業の方法	講義
担当教員	吉田美栄		実務授業の有無	×	
対象学科	野外教育・ｱｳﾄﾄﾞｱｽﾎﾟｰﾂ/キャンプビジネス/自然ガイド・環境保全/自然環境保全/山岳プロ/ｱｳﾄﾄﾞｱﾌﾞﾛｲﾝｽﾄﾗｸﾀｰ	対象学年	1	開講時期	通年
必修・選択	必修	単位数		時間数	16時間
授業概要、目的、授業の進め方	①実習、学校行事等のオリエンテーションを通し、カリキュラムにおける実習等の体系的な位置づけを理解する。 ②学内共同作業として、マテリアルルームの学校備品チェック、校舎清掃を行ない、公共奉仕のマインドを養う。 ③学科別オリテ、海外研修オリテ、特別授業等を通して、業界や専門性の理解、進路の明確化を促す。				
学習目標（到達目標）	学科・学年間の学生間交流や共有物利用のルール順守、進路面談等を通して、自立した人間として生活できるようになる				
テキスト・教材・参考図書・その他資料	資料（実習実施要項など）を適宜配布				

回数	授業項目、内容	学習方法・準備学習・備考
1	◆16:20~学生カード作成（各学科）　◆16:40~保険説明（Teamsにて全体説明）◆17:15～奨学金ガイダンス(対象者)	学科別に分かれ、指定の教室で活動
2	学科別HR（MP406/407　OES・CB306　NGC303/304　CL301　OPI305）	学科別に分かれ、指定の教室で活動
3	火器類の使用及びメンテナンス、米炊き実践 テントについて、テントの組み立て方	履修する実習別にガイダンスを受講
4	◆オンライン◆学科別HR（ＭＰ406/407　ＯＥＳ306　ＮＧＣ303/304　ＣＬ301、OPI305）	学科別に分かれ、指定の教室で活動
5	学科別HR（MP406/407　OES・CB306　NGC303/304　CL301　OPI305）	学科別に分かれ、指定の教室で活動
6	学学科別HR（MP406/407　OES・CB306　NGC303/304　CL301　OPI305）	学科別に分かれ、指定の教室で活動
7	実習オリエンテーション（7月分）	履修する実習別にガイダンスを受講
8	学科別HR（MP406/407　OES・CB306　NGC303/304　CL301　OPI305）	学科別に分かれ、指定の教室で活動
9	学科別HR（MP406/407　OES・CB306　NGC303/304　CL301　OPI305）	学科別に分かれ、指定の教室で活動
10	実習オリエンテーション（11月分）	履修する実習別にガイダンスを受講
11	学科別HR（MP406/407　OES・CB306　NGC303/304　CL301　OPI305）	学科別に分かれ、指定の教室で活動
12	学科別HR（MP406/407　OES・CB306　NGC303/304　CL301　OPI305）	学科別に分かれ、指定の教室で活動
13	就職研修オリエンテーション	12月に実施する就職研修のガイダンス
14	学科別HR（MP406/407　OES・CB306　NGC303/304　CL301　OPI305）	学科別に分かれ、指定の教室で活動
15	実習オリエンテーション（1月分）	履修する実習別にガイダンスを受講
16	就職状況報告会	3年生が就職活動状況を発表

評価方法・成績評価基準	履修上の注意
出席率、授業姿勢等、総合的に評価を行います。 出席率80％未満の場合、原則として成績評価は行わない。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。	学科別活動：山岳プロ学科（MP）、野外教育・ｱｳﾄﾄﾞｱｽﾎﾟｰﾂ学科（OES）、自然ガイド・環境保全学科（NGC）

実務経験教員の経歴	国際自然環境アウトドア専門学校での担任歴1年

科目名	ホームルーム			授業の方法	講義
担当教員	小野彰太		実務授業の有無	×	
対象学科	野外教育・ｱｳﾄﾄﾞｱｽﾎﾟｰﾂ/自然ガイド・環境保全/山岳プロ/ｸﾗｲﾐﾝｸﾞｲﾝｽﾄﾗｸﾀｰ	対象学年	2	開講時期	通年
必修・選択	必修	単位数		時間数	16時間
授業概要、目的、授業の進め方	①実践行動学の授業を通して、自己理解、他者理解、コミュニケーション力を向上する。 ②実習、学校行事等のオリエンテーションにより、カリキュラムにおける実習等の体系的な位置づけを理解する。 ③学内共同作業として、マテリアルルームの学校備品チェック、校舎清掃を行ない、公共奉仕を養う。 ④学科別活動を通して、業界や専門性の理解、進路の明確化を促す。				
学習目標（到達目標）	学科・学年間の学生間交流や共有物利用のルール順守、進路面談等を通して、自立した人間として生活できるようになる				
テキスト・教材・参考図書・その他資料	資料（実習実施要項など）を適宜配布				

回数	授業項目、内容	学習方法・準備学習・備考
1	◆16:20~学生カード作成（各学科）　◆16:40~保険説明（Teamsにて全体説明）◆17:15～奨学金ガイダンス(対象者)	学科別に分かれ、指定の教室で活動
2	学科別HR（MP406/407　OES・CB306　NGC303/304　CL301 OPI305）	学科別に分かれ、指定の教室で活動
3	火器類の使用及びメンテナンス、米炊き実践 テントについて、テントの組み立て方	履修する実習別にガイダンスを受講
4	◆オンライン◆学科別HR（ＭＰ406/407　ＯＥＳ306　ＮＧＣ303/304　ＣＬ301、OPI305）	学科別に分かれ、指定の教室で活動
5	学科別HR（MP406/407　OES・CB306　NGC303/304　CL301 OPI305）	学科別に分かれ、指定の教室で活動
6	学学科別HR（MP406/407　OES・CB306　NGC303/304　CL301 OPI305）	学科別に分かれ、指定の教室で活動
7	実習オリエンテーション（7月分）	履修する実習別にガイダンスを受講
8	学科別HR（MP406/407　OES・CB306　NGC303/304　CL301 OPI305）	学科別に分かれ、指定の教室で活動
9	学科別HR（MP406/407　OES・CB306　NGC303/304　CL301 OPI305）	学科別に分かれ、指定の教室で活動
10	実習オリエンテーション（11月分）	履修する実習別にガイダンスを受講
11	学科別HR（MP406/407　OES・CB306　NGC303/304　CL301 OPI305）	学科別に分かれ、指定の教室で活動
12	学科別HR（MP406/407　OES・CB306　NGC303/304　CL301 OPI305）	学科別に分かれ、指定の教室で活動
13	就職研修オリエンテーション	12月に実施する就職研修のガイダンス
14	学科別HR（MP406/407　OES・CB306　NGC303/304　CL301 OPI305）	学科別に分かれ、指定の教室で活動
15	実習オリエンテーション（1月分）	履修する実習別にガイダンスを受講
16	就職状況報告会	3年生が就職活動状況を発表

評価方法・成績評価基準	履修上の注意
出席率、授業姿勢等、総合的に評価を行います。 出席率80％未満の場合、原則として成績評価は行わない。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。	学科別活動：山岳プロ学科（MP）、野外教育・ｱｳﾄﾄﾞｱｽﾎﾞｰﾂ学科（OES）、自然ガイド・環境保全学科（NGC）

実務経験教員の経歴	国際自然環境アウトドア専門学校での担任歴1年以上

科目名	ホームルーム	授業形態	対面授業・遠隔授業併用	授業の方法	講義
担当教員	斎藤達也	実務授業の有無	×		
対象学科	野外教育・ｱｳﾄﾄﾞｱｽﾎﾟｰﾂ/自然ガイド・環境保全/山岳プロ/ｸﾗｲﾐﾝｸﾞｲﾝｽﾄﾗｸﾀｰ	対象学年	3	開講時期	通年
必修・選択	必修	単位数		時間数	16時間
授業概要、目的、授業の進め方	①実践行動学の授業を通して、自己理解、他者理解、コミュニケーション力を向上する。 ②実習、学校行事等のオリエンテーションにより、カリキュラムにおける実習等の体系的な位置づけを理解する。 ③学内共同作業として、マテリアルルームの学校備品チェック、校舎清掃を行ない、公共奉仕を養う。 ④学科別活動を通して、業界や専門性の理解、進路の明確化を促す。				
学習目標（到達目標）	学科・学年間の学生間交流や共有物利用のルール順守、進路面談等を通して、自立した人間として生活できるようになる				
テキスト・教材・参考図書・その他資料	資料（実習実施要項など）を適宜配布				

回数	授業項目、内容	学習方法・準備学習・備考
1	◆16:20~学生カード作成（各学科）　◆16:40~保険説明（Teamsにて全体説明）◆17:15～奨学金ガイダンス(対象者)	学科別に分かれ、指定の教室で活動
2	学科別HR（MP406/407　OES・CB306　NGC303/304　CL301　OPI305）	学科別に分かれ、指定の教室で活動
3	火器類の使用及びメンテナンス、米炊き実践 テントについて、テントの組み立て方	履修する実習別にガイダンスを受講
4	◆オンライン◆学科別HR（ＭＰ406/407　ＯＥＳ306　ＮＧＣ303/304　ＣＬ301、OPI305）	学科別に分かれ、指定の教室で活動
5	学科別HR（MP406/407　OES・CB306　NGC303/304　CL301　OPI305）	学科別に分かれ、指定の教室で活動
6	学学科別HR（MP406/407　OES・CB306　NGC303/304　CL301　OPI305）	学科別に分かれ、指定の教室で活動
7	実習オリエンテーション（7月分）	履修する実習別にガイダンスを受講
8	学科別HR（MP406/407　OES・CB306　NGC303/304　CL301　OPI305）	学科別に分かれ、指定の教室で活動
9	学科別HR（MP406/407　OES・CB306　NGC303/304　CL301　OPI305）	学科別に分かれ、指定の教室で活動
10	実習オリエンテーション（11月分）	履修する実習別にガイダンスを受講
11	学科別HR（MP406/407　OES・CB306　NGC303/304　CL301　OPI305）	学科別に分かれ、指定の教室で活動
12	学科別HR（MP406/407　OES・CB306　NGC303/304　CL301　OPI305）	学科別に分かれ、指定の教室で活動
13	就職研修オリエンテーション	12月に実施する就職研修のガイダンス
14	学科別HR（MP406/407　OES・CB306　NGC303/304　CL301　OPI305）	学科別に分かれ、指定の教室で活動
15	実習オリエンテーション（1月分）	履修する実習別にガイダンスを受講
16	就職状況報告会	3年生が就職活動状況を発表

評価方法・成績評価基準	履修上の注意
出席率、授業姿勢等、総合的に評価を行います。 出席率80％未満の場合、原則として成績評価は行わない。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。	学科別活動：山岳プロ学科（MP）、野外教育・ｱｳﾄﾄﾞｱｽﾎﾟｰﾂ学科（OES）、自然ガイド・環境保全学科（NGC） 【その他行事予定】 4/9(金)進級生オリテ、7/16(金)特別授業、9月実習オリテ、終了式、マテリアルルームの棚卸、12/2-3(木･金)就職研修、2/18(金)卒業研究発表会、終業式、マテリアルルーム棚卸 (未定)スポーツ大会

実務経験教員の経歴	国際自然環境アウトドア専門学校での担任歴3年以上

科目名	特別授業			授業の方法	講義
担当教員	外部講師		実務授業の有無	○	
対象学科	野外教育・ｱｳﾄﾄﾞｱｽﾎﾟｰﾂ/自然ガイド・環境保全/山岳プロ/ｸﾗｲﾐﾝｸﾞｲﾝｽﾄﾗｸﾀｰ	対象学年	1	開講時期	前期
必修・選択	必修	単位数		時間数	8時間
授業概要、目的、授業の進め方	① 外部講師の講演を受講し、業界の仕事内容や専門スキル、人材ニーズを理解するとともに、社会人としての心構えを学ぶ ② インターンシップや就職活動に向けたモチベーションの向上を図る ③ 夏季休暇を有意義に過ごすための意識付けを図る				
学習目標（到達目標）	業界が求めるニーズ（人間性、技術、知識）を理解し、 授業内容やインターンシップの必要性を再確認する。				
テキスト・教材・参考図書・その他資料	テキスト（外部講師準備）				

回数	授業項目、内容	学習方法・準備学習・備考
1	各業界における先駆者や業界を開拓している方からの講演	講演形式、筆記用具、

評価方法・成績評価基準	履修上の注意
出席率と授業態度により評価を行う。 出席率80％未満の場合、原則として成績評価は行わない。 成績評価基準は、優(80点以上)・良(70点以上)・可(60点以上)・不可(59点以下)とする。	

実務経験教員の経歴	外部講師は各事業にて実務経験あり。講演、講義経験あり。各分野において先進的な事業に取り組まれている団体、及び業界に精通し牽引されている業界人を招く。

科目名	特別授業			授業の方法	講義
担当教員	外部講師		実務授業の有無	○	
対象学科	野外教育・ｱｳﾄﾄﾞｱｽﾎﾟｰﾂ/自然ガイド・環境保全/山岳プロ/ｸﾗｲﾐﾝｸﾞｲﾝｽﾄﾗｸﾀｰ	対象学年	2	開講時期	前期
必修・選択	必修	単位数		時間数	8時間
授業概要、目的、授業の進め方	① 外部講師の講演を受講し、業界の仕事内容や専門スキル、人材ニーズを理解するとともに、社会人としての心構えを学ぶ ② インターンシップや就職活動に向けたモチベーションの向上を図る ③ 夏季休暇を有意義に過ごすための意識付けを図る				
学習目標（到達目標）	業界が求めるニーズ（人間性、技術、知識）を理解し、 授業内容やインターンシップの必要性を再確認する。				
テキスト・教材・参考図書・その他資料	テキスト（外部講師準備）				

回数	授業項目、内容	学習方法・準備学習・備考
1	各業界における先駆者や業界を開拓している方からの講演	講演形式、筆記用具、

評価方法・成績評価基準	履修上の注意
出席率と授業態度により評価を行う。 出席率80％未満の場合、原則として成績評価は行わない。 成績評価基準は、優(80点以上)・良(70点以上)・可(60点以上)・不可(59点以下)とする。	

実務経験教員の経歴	外部講師は各事業にて実務経験あり。講演、講義経験あり。各分野において先進的な事業に取り組まれている団体、及び業界に精通し牽引されている業界人を招く。

科目名	特別授業			授業の方法	講義
担当教員	外部講師		実務授業の有無	○	
対象学科	野外教育・ｱｳﾄﾄﾞｱｽﾎﾟｰﾂ/自然ガイド・環境保全/山岳プロ/ｸﾗｲﾐﾝｸﾞｲﾝｽﾄﾗｸﾀｰ	対象学年	3	開講時期	前期
必修・選択	必修	単位数		時間数	8時間
授業概要、目的、授業の進め方	① 外部講師の講演を受講し、業界の仕事内容や専門スキル、人材ニーズを理解するとともに、社会人としての心構えを学ぶ ② インターンシップや就職活動に向けたモチベーションの向上を図る ③ 夏季休暇を有意義に過ごすための意識付けを図る				
学習目標（到達目標）	業界が求めるニーズ（人間性、技術、知識）を理解し、 授業内容やインターンシップの必要性を再確認する。				
テキスト・教材・参考図書・その他資料	テキスト（外部講師準備）				

回数	授業項目、内容	学習方法・準備学習・備考
1	各業界における先駆者や業界を開拓している方からの講演	講演形式、筆記用具、

評価方法・成績評価基準	履修上の注意
出席率と授業態度により評価を行う。 出席率80％未満の場合、原則として成績評価は行わない。 成績評価基準は、優(80点以上)・良(70点以上)・可(60点以上)・不可(59点以下)とする。	

実務経験教員の経歴	外部講師は各事業にて実務経験あり。講演、講義経験あり。各分野において先進的な事業に取り組まれている団体、及び業界に精通し牽引されている業界人を招く。

科目名	海外研修			授業の方法	実習
担当教員	斎藤達也		実務授業の有無	×	
対象学科	野外教育・ｱｳﾄﾄﾞｱｽﾎﾟｰﾂ/自然ガイド・環境保全/山岳プロ/ｸﾗｲﾐﾝｸﾞｲﾝｽﾄﾗｸﾀｰ	対象学年	1	開講時期	後期
必修・選択	必修	単位数		時間数	80時間
授業概要、目的、授業の進め方	外国人旅行者への対応能力の向上と、海外における先進的なエコツーリズム・アウトドア・クライミング業界の動きを学ぶため、7～10日程度の海外研修を実施する。研修中はインストラクターが帯同し、滞在国における学びや生活の支援を頂きつつ、アウトドア・クライミング施設や自然公園等をご案内頂く。2019年度はアメリカ合衆国ボーズマンおよびイエローストーン国立公園で研修を行う。				
学習目標（到達目標）	①英語によるコミュニケーション能力の向上 ②海外でのアウトドア・環境保全・クライミングの流れについて自分なりの考え方をもつ				
テキスト・教材・参考図書・その他資料	海外旅行や研修先の国に関する書籍（地球の歩き方等）を各自読んでおくこと。				

回数	授業項目、内容	学習方法・準備学習・備考
1	1～2日目：移動（成田/羽田⇒ボーズマン） 3日目～ ・オオカミなどの観察や野生動物の生態系についての学習 ・アメリカの国立公園における野生動物の保護管理についての学習 ・ボーズマンのスキー場における雪崩管理、スキーパトロールについての学習 ・クライミングジムの管理運営等についての学習 ・地元の方との英語コミュニケーション （内容と研修日数は年により変動） 最終日：移動（ボーズマン⇒成田/羽田）	学習方法は以下の通り。 ・地元のガイド・インストラクターからのインタープリテーションを受講 ・日本国内の自然についての英語によるインタープリテーションの実践 ・グループワーク・ディスカッション ・英語による地元の方とのコミュニケーション

評価方法・成績評価基準	履修上の注意
出席、生活態度、イベントへの参加姿勢、協調性、研修後のレポートの完成度から総合的に評価します。 出席率80％未満の場合、原則として成績評価は行わない。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。	海外研修では集団活動がメインとなり、日本と研修先の国家では文化や常識も異なります。協調性をもち、慎重に行動してください。また、英語でのコミュニケーション能力を向上させる機会ですので、積極的なイベントへの参加が求められます。

実務経験教員の経歴	

科目名	就職準備研修Ⅰ			授業の方法	演習
担当教員	吉田美栄		実務授業の有無	×	
対象学科	野外教育・ｱｳﾄﾄﾞｱｽﾎﾟｰﾂ/自然ガイド・環境保全/山岳プロ/ｸﾗｲﾐﾝｸﾞｲﾝｽﾄﾗｸﾀｰ	対象学年	1	開講時期	後期
必修・選択	必修	単位数		時間数	16時間
授業概要、目的、授業の進め方	実践行動学のテキストを通して、他者との関わりの中で自分自身について振り返る。また、社会におけるコミュニケーションの重要性を理解する。				
学習目標（到達目標）	Part1　学校生活のスタートラインに立っている時期に過去の時分を振り返り、また現在・近未来の時分について考えることを通して短期目標を設定する。 Part2　入学後から現在までを振り返り、自らの成長の足跡を確認する。そのうえで、自己の潜在的能力や可能性を引き出すための考え方や意識の持ち方に気づきを与えるとともに、自立に向けた技術・方策を提供する。				
テキスト・教材・参考図書・その他資料	実践行動学研究所　夢実現のための実践行動学				

回数	授業項目、内容	学習方法・準備学習・備考
1	Part1　意欲的な心構え マジックドア1　夢と目標 マジックドア2　夢を喰うバク…「誤った思い込み」と「言い訳」 マジックドア3　自分への信頼を取り戻すために その1　行動のよりどころと心構え マジックドア4　自分への信頼を取り戻すために その2　まず第一歩を マジックドア5　目標を設定しよう	テキスト読み合わせ・グループワーク
2	Part2　自分の可能性を広げよう マジックドア1　プラス思考が自分の能力・可能性を大きく広げる マジックドア2　考え方を変えれば行動が変わる マジックドア3　あなたの問題は、あなたが解決できる マジックドア4　あなたのコミュニケーションスタイルを見直そう マジックドア5　目標が才能・可能性を開花させる	テキスト読み合わせ・グループワーク

評価方法・成績評価基準	履修上の注意
出席率、授業姿勢、ワークシートの完成度等、総合的に評価を行います。 出席率80％未満の場合、原則として成績評価は行わない。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。	自分と向き合うと同時に、他者の考えに触れられる貴重な時間です。意欲的に取り組んでください。

実務経験教員の経歴	専門学校での担任歴1年

科目名	就職準備研修Ⅱ			授業の方法	演習
担当教員	小野彰太		実務授業の有無	×	
対象学科	野外教育・ｱｳﾄﾄﾞｱｽﾎﾟｰﾂ/自然ガイド・環境保全/山岳プロ/ｸﾗｲﾐﾝｸﾞｲﾝｽﾄﾗｸﾀｰ	対象学年	2	開講時期	後期
必修・選択	必修	単位数		時間数	16時間
授業概要、目的、授業の進め方	就職活動に対しての心構えを持ち、面接試験対策、特に集団面接のための技術を習得する。				
学習目標（到達目標）	就職活動のプロセスを理解し、主体的に就職活動を進めることができる。				
テキスト・教材・参考図書・その他資料	■動画で学ぶ就活ナビ（eラーニング教材）■模擬面接質問内容　■面接入退室資料　■ 模擬面接スケジュール表　■グループ面接名簿　■面接評定表　■進路希望調査　■その他資料（ワークシート）を適宜配布				

回数	授業項目、内容	学習方法・準備学習・備考
1	個人面接_模擬面接の実施 ＊15分程度（フィードバック含む）/人	■模擬面接質問内容への返答内容を作成 ■模擬面接のスケジュール、手順に沿って、個人面接の実施
2	集団面接_模擬面接の実施 ＊10分間/人の面接とフィードバックで50分～1時間程度	■模擬面接質問内容への返答内容を作成 ■模擬面接のスケジュール、手順に沿って、集団面接の実施

評価方法・成績評価基準	履修上の注意
出席率、授業姿勢、ワークシートの完成度等、総合的に評価を行います。 出席率80％未満の場合、原則として成績評価は行わない。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。	・研修中は全日程スーツ着用で参加すること。

実務経験教員の経歴	専門学校での就職活動指導歴1年

科目名	ビジネスマナー研修			授業の方法	演習
担当教員	外部講師		実務授業の有無	○	
対象学科	野外教育・ｱｳﾄﾄﾞｱｽﾎﾟｰﾂ/自然ガイド・環境保全/山岳プロ/ｸﾗｲﾐﾝｸﾞｲﾝｽﾄﾗｸﾀｰ	対象学年	3	開講時期	後期
必修・選択	必修	単位数		時間数	16時間
授業概要、目的、授業の進め方	社会人としての心構えを持ち、基礎的なビジネスマナーを習得する。				
学習目標（到達目標）	社会人としての心構え、ビジネスマナー、税金、納税のしくみ等を学ぶ。				
テキスト・教材・参考図書・その他資料	・筆記用具・スーツ・テキスト（講師準備）・名刺入れ				

回数	授業項目、内容	学習方法・準備学習・備考
1	ビジネスマナー研修（基本的ビジネスマナーと実践）	外部講師講義　ミワアシスタンス
2	ビジネスマナー研修（給与のしくみについて）	学校法人新潟総合学園人材開発部
3	ビジネスマナー研修（租税教育）	外部講師　小菅税理士事務所

評価方法・成績評価基準	履修上の注意
出席率、授業姿勢、ワークシートの完成度等、総合的に評価を行います。 出席率80％未満の場合、原則として成績評価は行わない。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。	・研修中は全日程スーツ着用で参加すること。

実務経験教員の経歴	外部講師は各事業にて実務経験あり。講演、講義5年以上 ビジネスマナー外部講師講義　ミワアシスタンス（実務経歴5年以上） 租税教育外部講師　小菅税理士事務所（実務経歴10年以上）